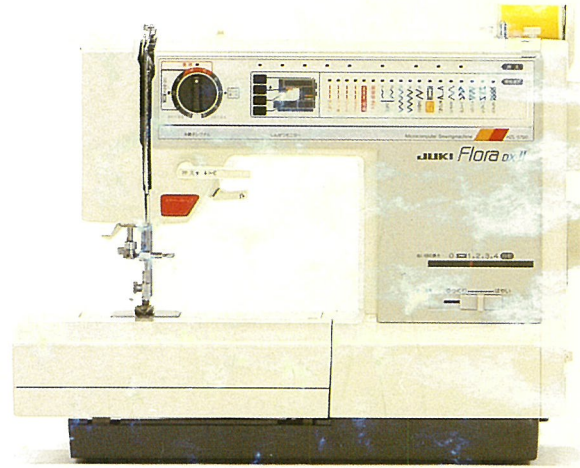


使用説明書・正しいミシンの使い方

ジューキコンピュータミシン

JQ-7DX-II
スーパーオートシグザグ HZL-5700型



JUKI®

お買い求めいただき、ありがとうございました。

今日からあなたのホームソーイング プランのパートナーとなりましたHZZ-5700型は、使い易さと縫う楽しさを追求した
ジューキ独自の長を備えたフリーアーム コンピューターミシンです。

世界で初めての自動糸切り装置、美しい縫い目を作る糸調子表示、縫い始めの準備状態をお知らせする しんせつモニター、そのほか針への糸通し装置、自動ボタン穴かがり縫い、押え選択表示等、コンピューター技術の応用により使い易く、より簡単でより楽しいホームソーイングができることを確信してお届け致しました。

この優れた数々の機能を楽しむご使用いただくためにはミシンの正しい取り扱いが基本となります。どうぞ、この使用説明書をよくお読みいただき、楽しいホームソーイングのパートナーとして末永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

万一ミシンについておわかりにならないことや、ご不審な点がありましたら、お買い上げ店並びに弊社サービスセンターへ、ご遠慮なくお申し出ください。ただちに係員を参上させ、アフターサービスに万全をつくり、ご奉仕申し上げます。

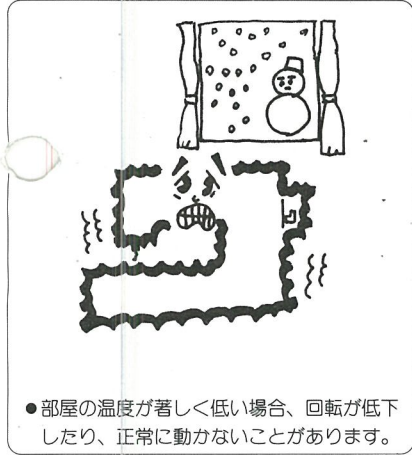
お買い上げいただきましたHZZ-5700型は、マイクロコンピューターを初め半導体電子部品を採用した精密な電子回路を内蔵しておりますので、次の事項を守ってご使用ください。

- ご使用になる部屋の温度が著しく低い場合、回転が低下する等正常に作動しないことがありますので、5℃～40℃の範囲でお使いください。
- このミシンに内蔵のモーターは、電子制御により、低速から高速回転まで、自在にコントロールが可能なモーターを採用しております。特に低速縫いを長時間行った場合、モーターの異状発熱を防ぐため、自動的に安全装置が働きモーターの電源回路が切れるしくみになっています。ご使用中万一モーターが止った場合、電源スイッチを切り、しばらく(約20分間)お待ちいただければ安全装置が復帰し正常にご使用できます。 ————— ご不審な点がありましたらお買い上げ店、または弊社サービスセンターにご一報ください。 —————

★この使用説明書は外装色3種類の商品に共通です。

正しくご使用いただくために、次の注意事項は必ずお守りください。

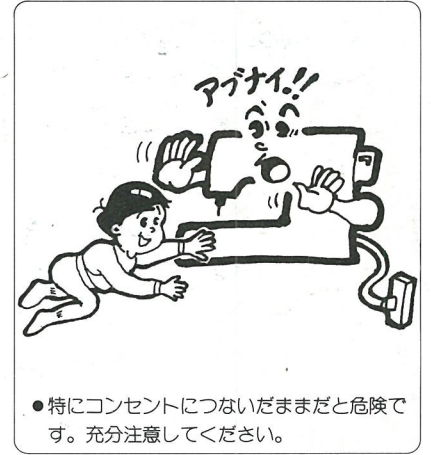
ご使用になる部屋の温度は
5℃～40℃の範囲でお使いください。



直射日光が当る場所、湿気が非常に
高い場所には長く置かないでください。
お出かけや、おやすみになるときは必ず電源スイッチを切り、コンセントからプラグを抜いてください。



小さなお子様のいるご家庭では、手の届くところに置かないでください。



ミシンの上に重たい物を
乗せないでください。



ミシン油以外の油は
使用しないでください。



コードリールの赤線よりも無理に
コードを引き出さないでください。



シンナーやその他の溶剤では
拭かないでください。



使用前の準備 ページ

特に注意していただきたいこと..... 1
 ケースのとりはずし方・付属品・押え..... 3
 各部の名称..... 4

使い方の基本 ページ

フリーアームのセット..... 4
 主なはたらき..... 5
 下糸の巻き方..... 6
 ボビンをボビンケースに入れる方法..... 7
 上糸のかけ方..... 8・9
 ●針への糸通し(糸通しレバーの使い方)..... 9
 模様選択のし方..... 10
 送り調節のし方..... 10
 押えのとりはずし方・とりつけ方..... 11
 押えと各模様の関係..... 11
 布地に合った糸と針の選び方..... 12
 糸調子つまみの使い方..... 12
 模様にあった糸と糸調子のとり方..... 13
 正しい糸調子のとり方..... 13
 しんせつモニターについて..... 14
 針について..... 15
 いろいろな縫い方のガイド..... 15

基本的な縫い方 ページ

直線縫い..... 16・17・18・19
 ●下糸の引きあげ方..... 16
 ●縫い方向を変えるとき..... 17
 ●返し縫いのし方..... 18
 ●縫い代の重なっている部分..... 18
 ●自動糸切りのし方..... 19
 ●糸を結ぶ方法(糸切りみぞを使う場合)..... 19
 はし縫い..... 20
 ジグザグ縫い..... 21

実用縫いと応用縫いのいろいろ ページ

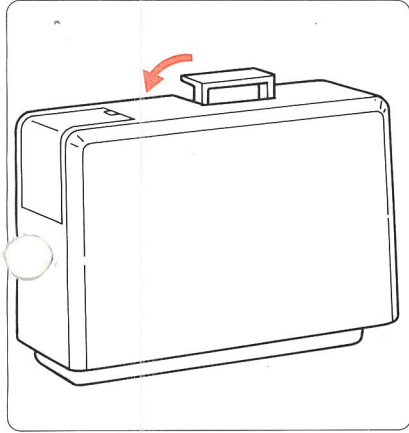
自動ボタン穴かがり..... 22・23・24
 筒縫い(フリーアーム)..... 24
 裁ち目かがり(縁かがり)..... 25
 ファスナーつけ..... 26・27
 コンシールファスナーつけ..... 28・29
 つき合わせファスナーつけ..... 30
 伸縮強化縫い..... 31
 ブラインドステッチ(まつり縫い)..... 32
 三点ジグザグ縫い(エラスチックステッチ)..... 34
 アププリケ..... 35
 ひもつけ(コーティング)..... 36
 三つ巻き縫い..... 37
 キルティング..... 38
 レースつけ..... 39
 パッチワーク..... 40
 スモッキング..... 41
 ピンタック..... 42
 シェルタック..... 43
 シャーリング..... 44
 ドロンワーク..... 45

別売品について
 縫い代の重なっている部分のボタン穴かがり..... 46
 コントローラーを使ったときのミシンの動かし方..... 47
 上送りアタッチメント.....

ミシンの調子が悪いとき ページ

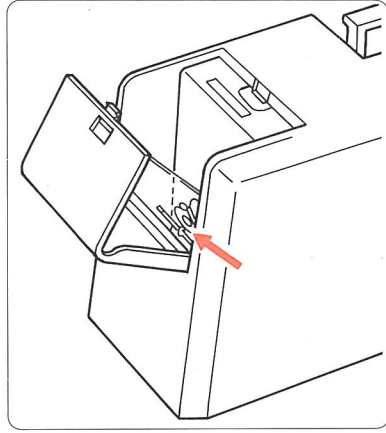
面部カバーの開け方と閉め方・下糸巻き調整・ランプ交換のし方..... 49
 ミシンの手入れ..... 50
 サービスをお申し付けになる前に..... 51・52・53
 サービスをお申し付けになるとき..... 54
 修理サービスのご案内..... 55

●ケースのとりはずし方



ハンドルをたおしてから、ケースを持ち上げます。

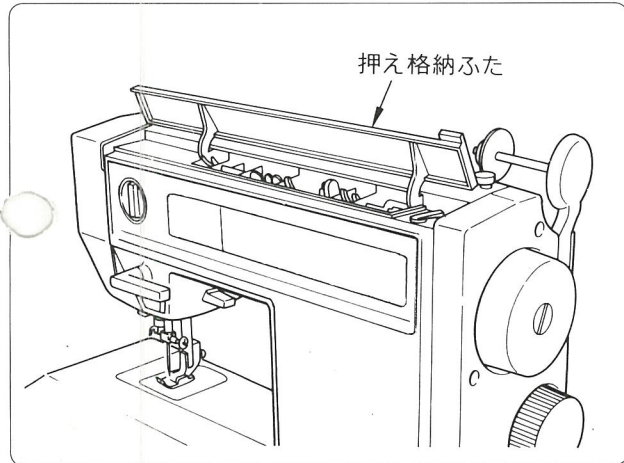
●付属品



ケースの中に付属品が入っています。

●リッパー(糸ほどき) 	●ドライバー(小) 	●ドライバー(中)
●油さし 	●棒定規 	●掃除用ブラシ
●針とケース 11番-2本 14番-1本 ニット針11番-2本(計5本) 	●ボビン(4個) 	●キャップ(大)

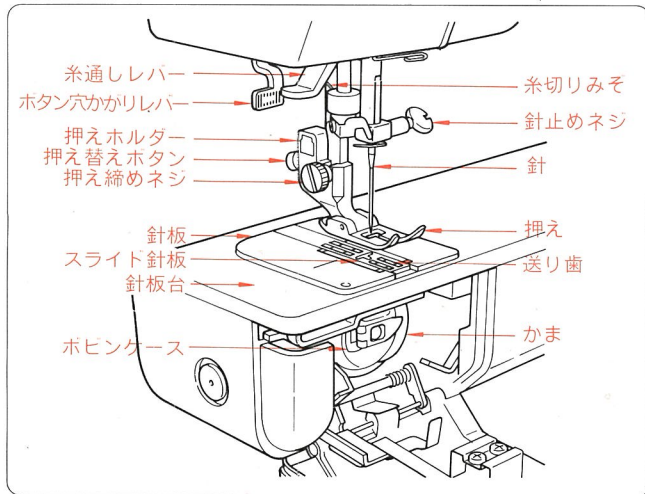
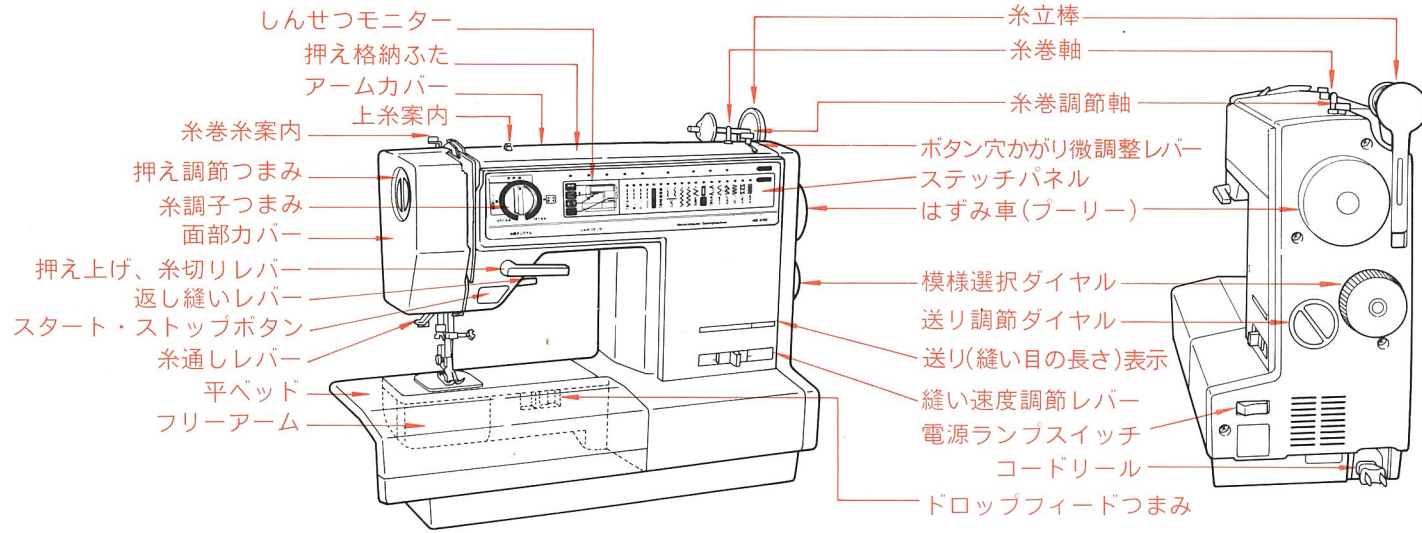
●押え



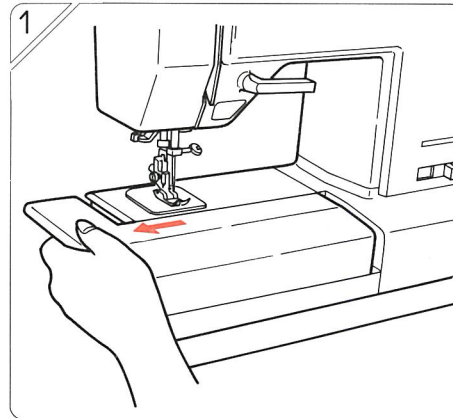
本体の押え格納ふたを開けると押えが入っています。

	ジグザグ押え		三つ巻押え		コンシール押え
	ファスナー押え		直線押え		ブラインドステッチ押え
	ひもつけ押え		裁ち目かがり押え		ボタン穴かがり押え

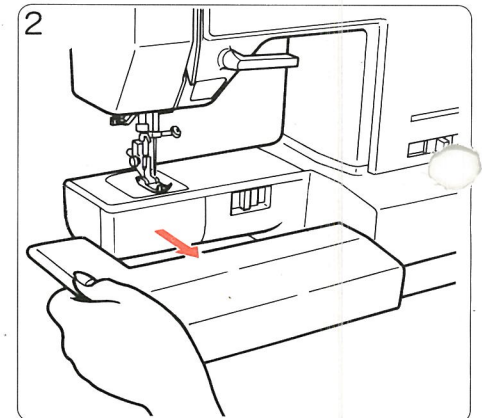
●各部の名称



●フリーアームのセット



ベッドを左へ引きます。



手前に引くとベッドが下へさがります。

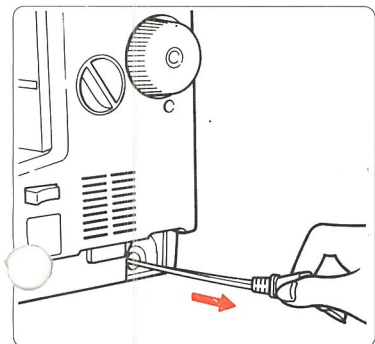
電源コンセント(コードリール)

電源ランプスイッチ

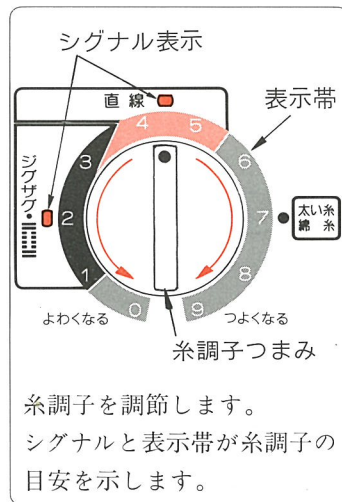
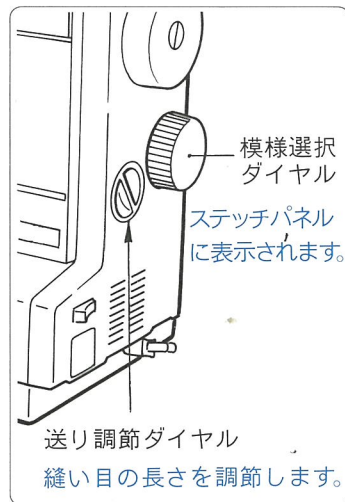
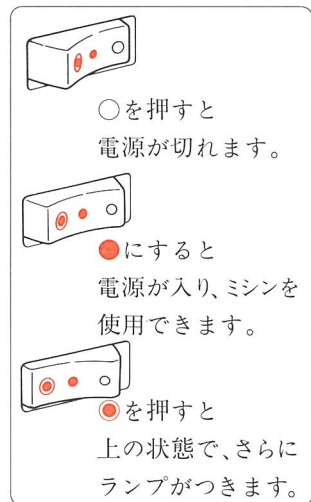
模様を選択・送りの調節

糸調子つまみ

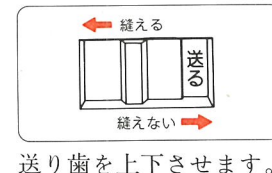
押え調節つまみ



コードを引き出しコンセントへ差し込みます。コードを少し引いてゆるめると、自動的に巻き込まれます。(黄の帯以上は引き出さないでください)



布地の種類や厚さによって押えの圧力を調節します。
ドロップフィードつまみ



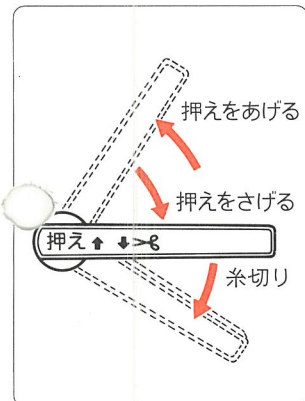
押え上げ・糸切りレバー

縫い速度調節レバー

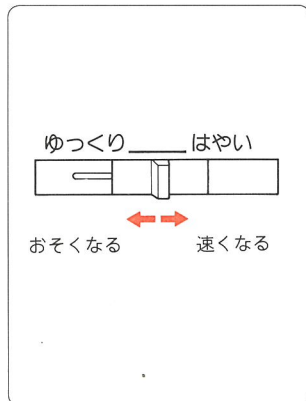
スタート・ストップボタン

返し縫いレバー

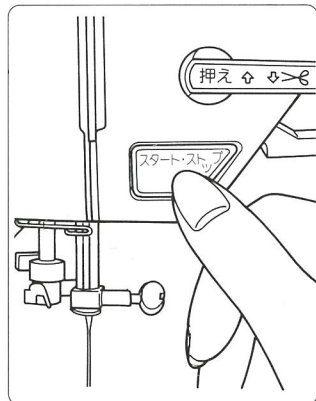
しんせつモニター



上にあげると押えがあがります。下にさげると糸が切れます。

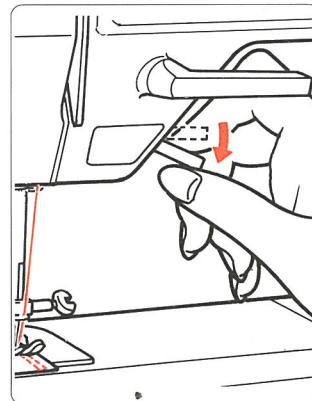


縫いの速さを調節します。

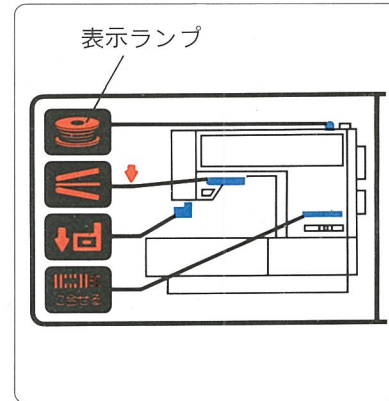


ミシンをスタートさせます。再度押すとストップします。

※押えを上げたまま押すと、1針で停止します。

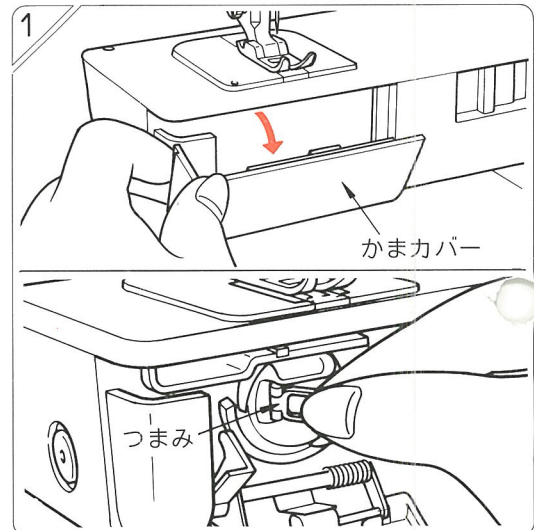
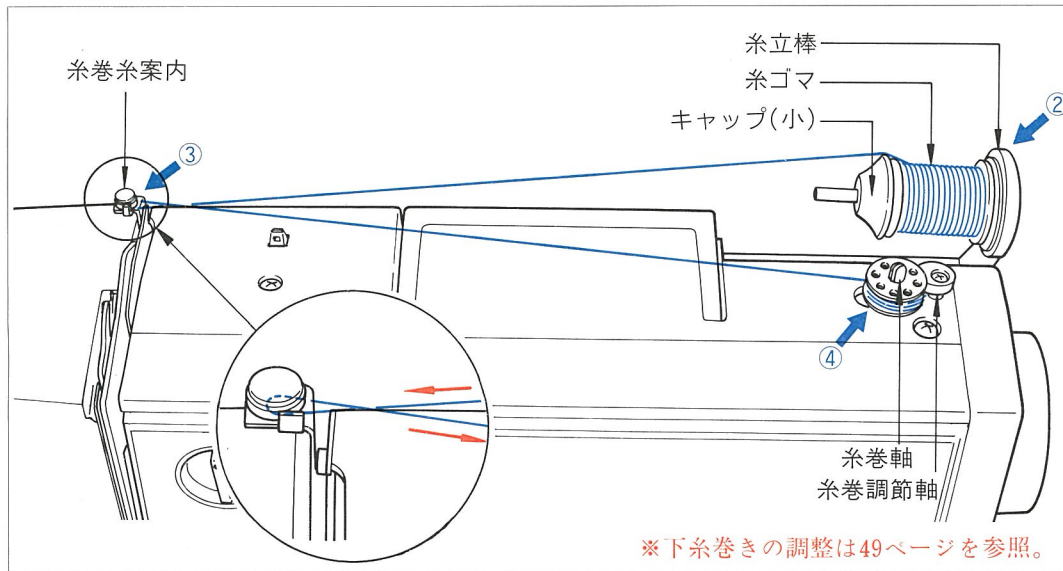


レバーを押している間だけ返し縫いができます。

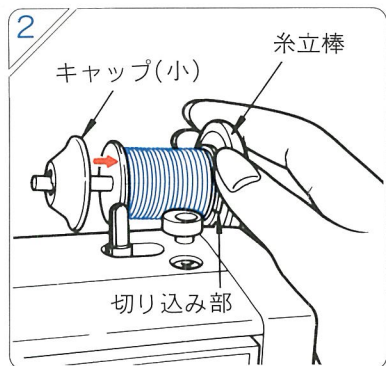


縫い始めの正しい準備がされていないと表示ランプが点灯してお知らせします。

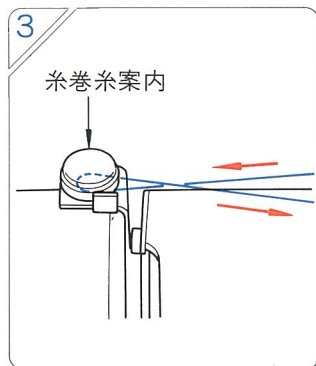
●下糸巻きの糸のかけ方



かまカバーの左側に手を添えて、手前に引き、かまカバーを開けます。つまみを持ってボビンケースをとり出します。



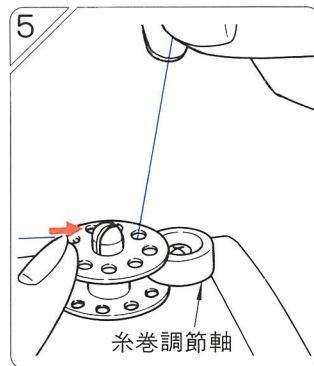
糸立棒を右手でささえ、糸ゴマを切り込み部から入れ、キャップで糸ゴマを押えます。



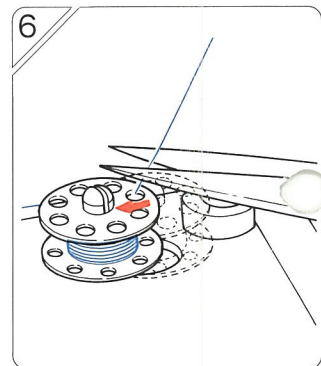
糸巻糸案内に図のように糸をかけます。



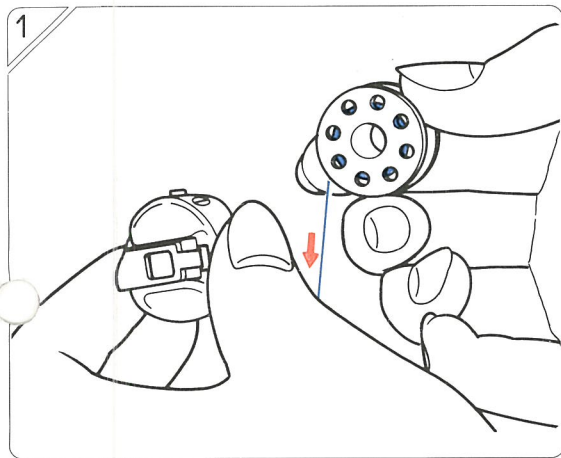
ボビンの小穴の内側から5センチ糸を引き出し、ボビンを糸巻軸にしっかり差し込みます。



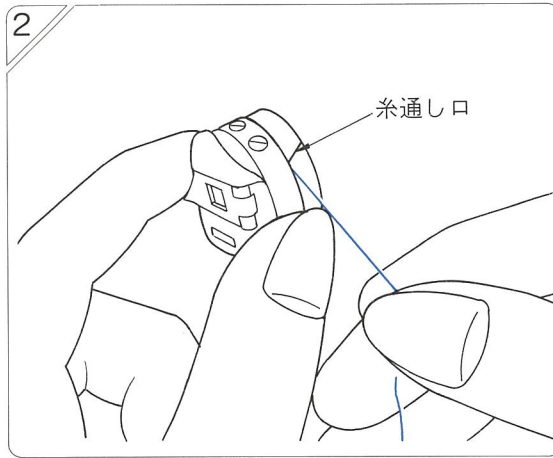
糸はしを持ったまま、ボビンを右へ押し、スタート・ストップボタンを押します。(巻く速さは中速程度)
※しんせつモニターのランプがつきます。



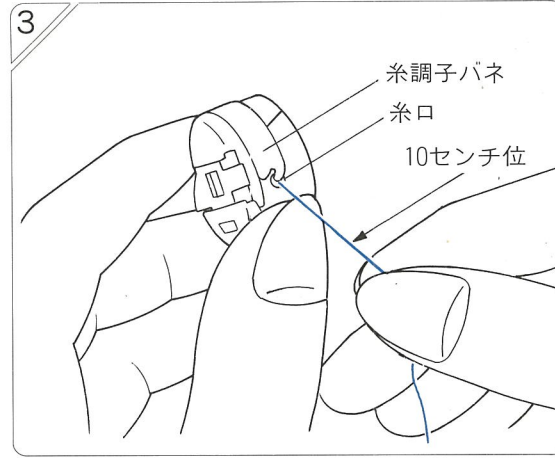
巻き終わると糸巻軸の回転が止まります。糸巻軸をしっかりもとにもどしてボビンを取り出します。



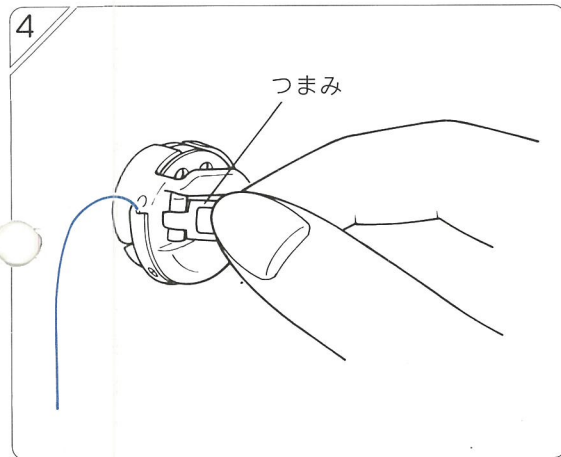
1
ボビンの糸はしを矢印の方向（向こう側）に出してボビンケースに入れます。



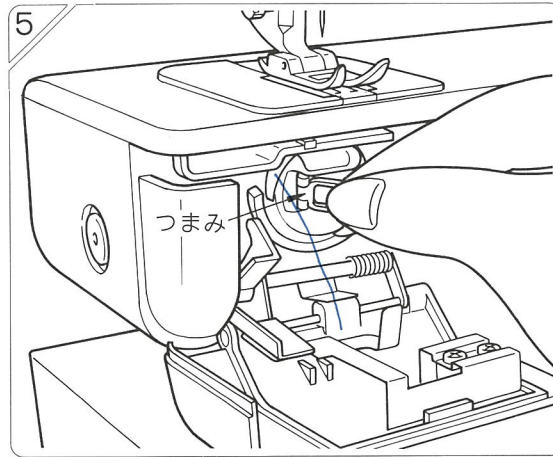
2
糸をボビンケースの糸通し口に通します。



3
糸を糸調子バネの下にくぐらせ、糸口から10センチ位引き出します。



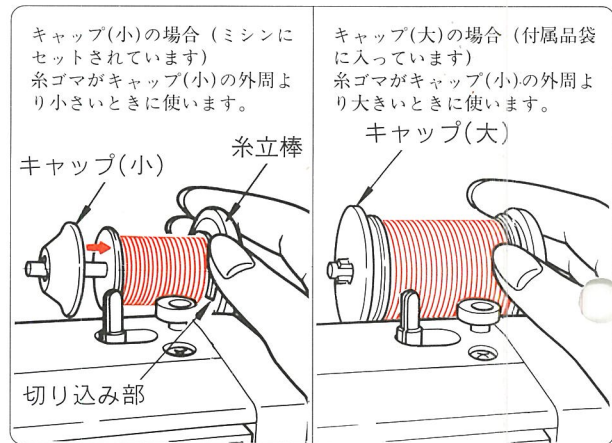
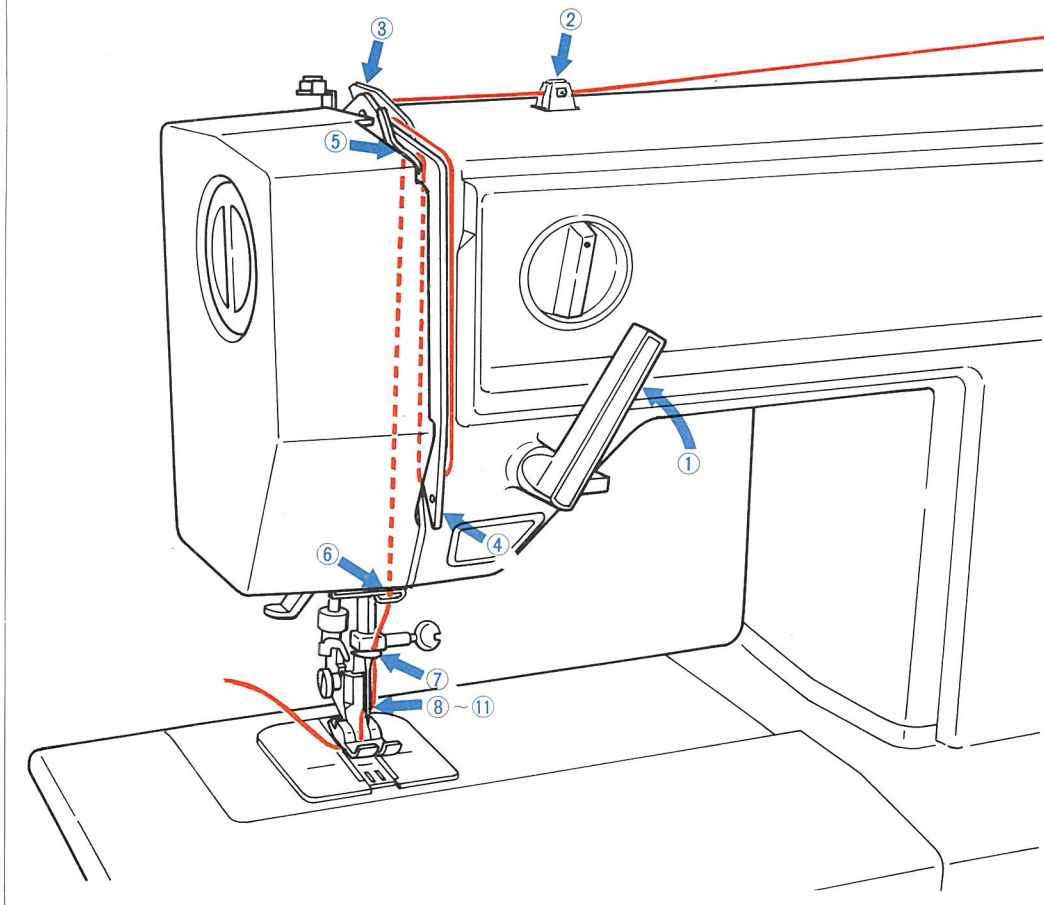
4
ボビンケースのつまみを右手で持ちます。



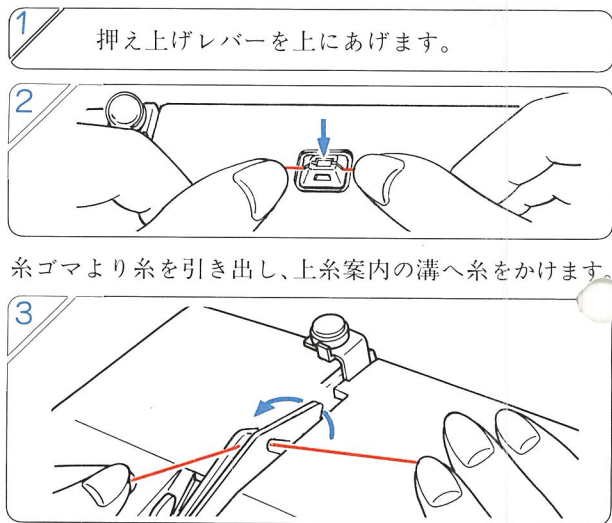
5
ボビンケースのつまみをいっぱいにかけて、かまにしっかりと差し込みます。

●上糸のかけ方

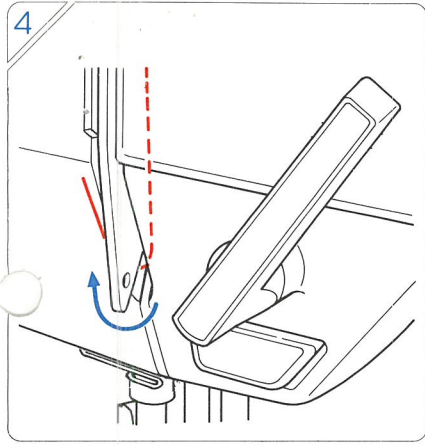
糸のかけ方をよくおぼえ、順序どおりにかけましょう。
糸通しレバーを使うときは針を上にあげてください。



糸立棒を右手でささえながら糸ゴマを糸立棒に入れて、
キャップで糸ゴマが動かないように押えます。
※糸ゴマは切り込み部から糸立棒に入れます。

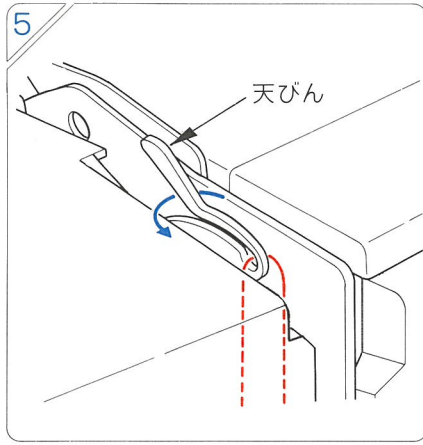


次に、図のように右から左へ糸をかけそのまま下へおろします。

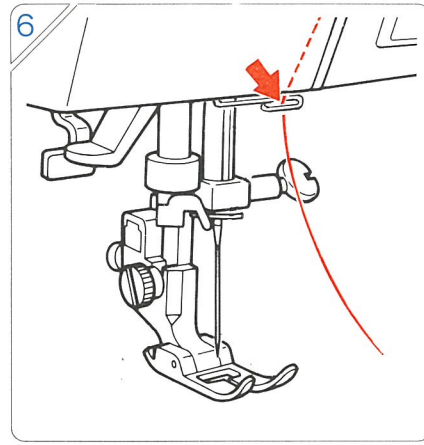


4
下から上に糸をおり返します。
(これで糸調子皿に糸が入り、糸とり
バネにも糸がかかります。)

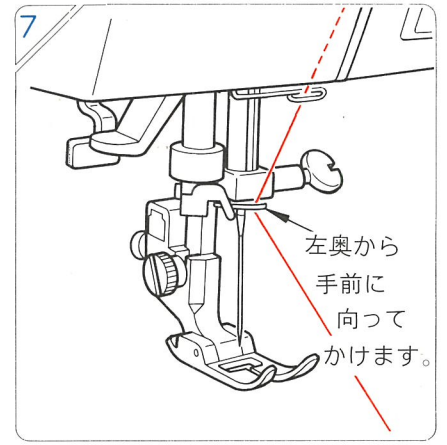
※糸通しレバーは11番、14番、16番の針を使います。



5
天びんに糸をかけ、そのまま下におろ
します。

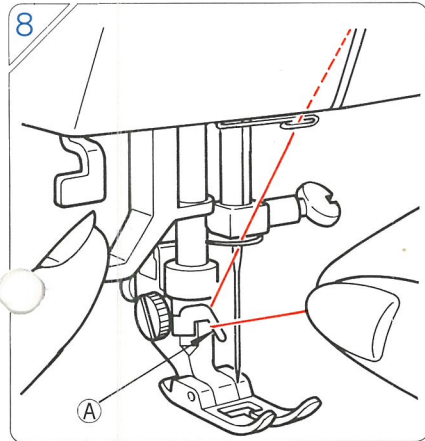


6
矢印のところに左側より糸をかけます。



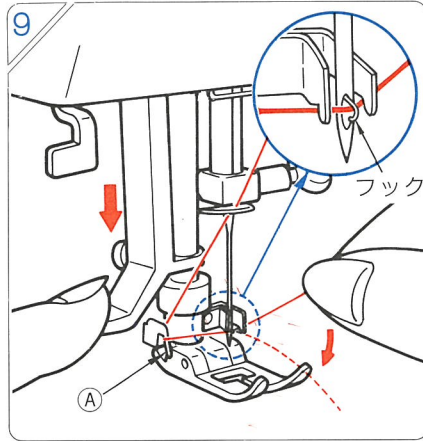
7
図のように糸がかけおわりましたら、
押えをさげます。

※針を最上点の位置にしてください。



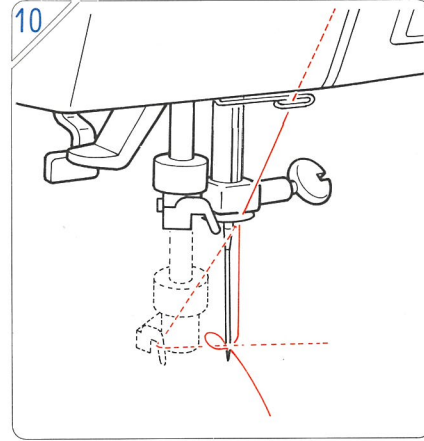
8
糸通しレバーをおろしながらAのとこ
ろに内側から糸をかけます。

※糸は軽く引っ張ってください。



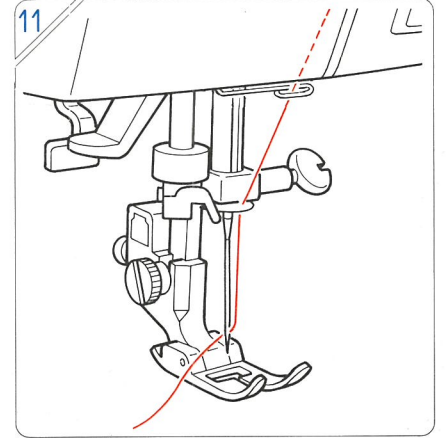
9
糸通しレバーをいっぱいまでおろすと
自動的にAが回転しますので糸をフック
の下に持っていきます。

※糸を手前に軽く引き、フックに糸が
かかっているか確認してください。



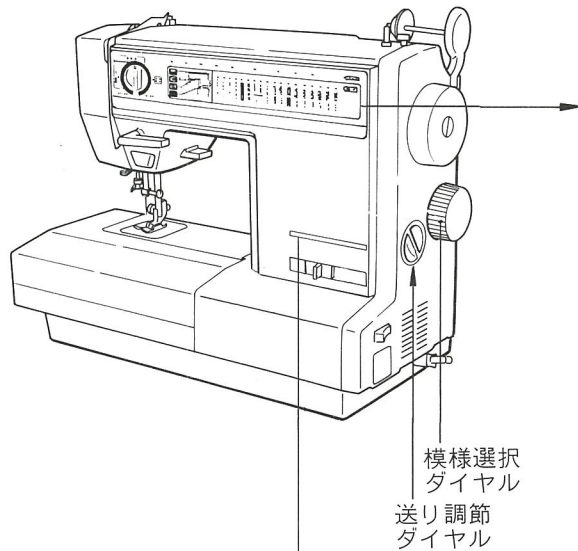
10
糸通しレバーを離すと、糸は針穴に通
っています。

※糸通しレバーを離すとき、右手の糸
をゆるめてください。



11
通した糸を10センチくらいひき出しま
す。

●模様選択の仕方



●模様に適した押えも同時に表示されます。

押え

模様選択

●模様選択ダイヤルを回して模様を選びます。
※模様選択が、確実にセットされないままスタート・ストップボタンを押してもミシンは動きません。

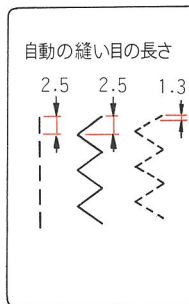
●送り調節の仕方

- 送り調節ダイヤルを回すと、縫い目の長さが送り指標に表示されます。

ぬい目の長さ 0 1 2 3 4 (自動)



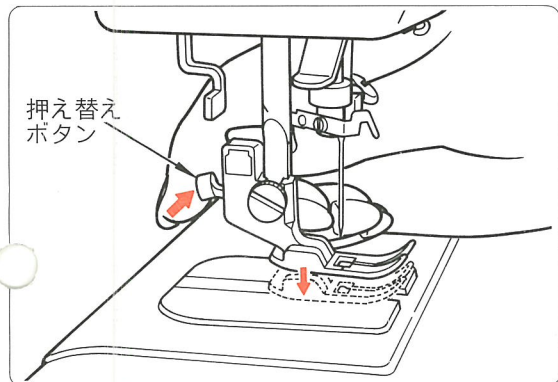
- 手動…0から4にむかって縫い目が大きくなります。
- 自動…標準的な縫い目がセットされます。(右表参照)



各模様の縫い目の長さ

模様	0	1	2	3	4	5	自動	1	2	3	4	5	自動	1	2	3	4	5	
縫い目の長さ	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.3	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.2	1.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3
縫い目の長さ	0	1	1	1	0	0	0.2	0.5	0.5	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
自動	4	4	4	4	4	4	1	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
手動	4	4	4	4	4	4	1	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4

●押えのとりはずし方

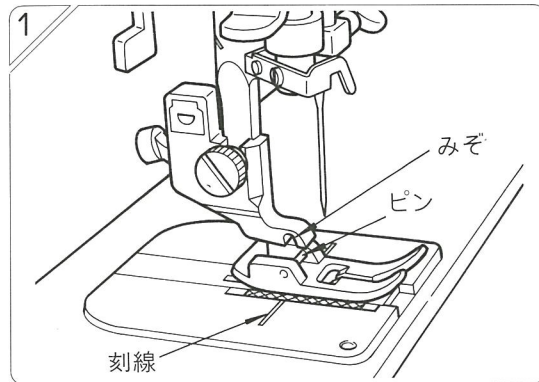


押えをあげてから押え替えボタンを押しますとはずれます。

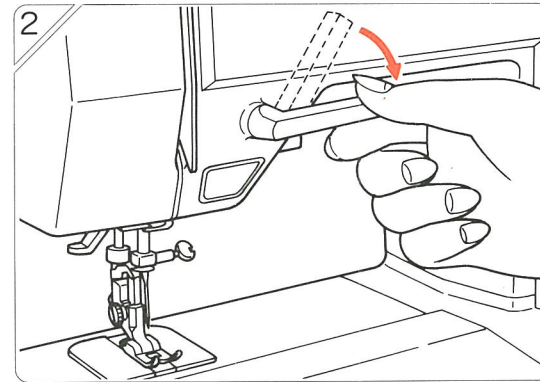
※直線押え、裁ち目かがり押え、ファスナー押え、コンシール押えを使うときは、はずみ車を手で回して針の落ちる位置をたしかめてください。

※押えの交換をするとき、安全のため電源スイッチを切ってください。

●押えのとりつけ方



みぞの下に押えを置き、押えのピンを刻線の位置にあわせます。

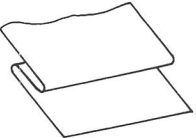
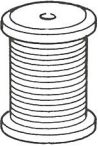






押え上げレバーをさげますと、押えがセットされます。

●押えと各模様の関係

	ジグザグ押え							三つ巻押え	コンシール押え	ファスナー押え	直線押え	ブライドステッチ押え	ひもつけ押え	裁ち目かがり押え	ボタン穴かがり押え									
押えのかたち																								
押えの番号	1							6	8	4	2	9	3	5	11									
模様																								
主な縫い方	ジグザグ縫い	アップリケ	キルティング	はし縫い	ピンタック	裁ち目かがり	三点ジグザグ縫い (エラスチックステッチ)	レースつけ	スモッキング	パッチワーク	ドロンワーク	二つ巻き縫い	コンシール ファスナーつけ	ファスナーつけ	直線縫い	キルティング	ピントック	シャーリング	伸縮強化縫い	ブリダステッチ (まつりぬい)	シエルトック	ひもつけ	裁ち目かがり (オーバーロック)	自動ボタン 穴かがり
ページ	21	35	38	20	42	25	34	39	41	40	45	37	28	26	16	38	42	44	31	32	43	36	25	22

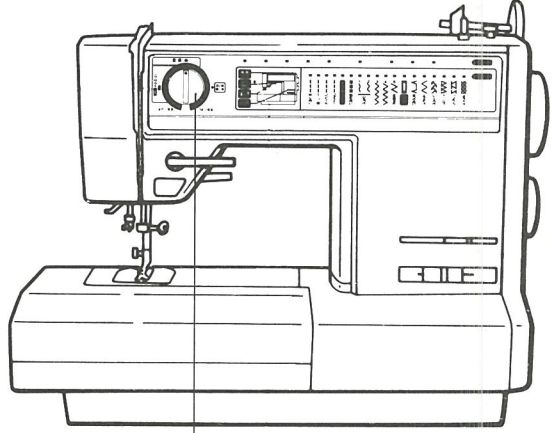
●布地に合った糸と針の選び方

	布 地	ミシン糸	ミシン針
			 HA×1, HA×1KN
薄地縫い 	ローン	絹ミシン糸——50番 化繊・細ミシン糸 90番・100番	(9番) 11番
	ジョーゼット		
	★トリコット	化繊ミシン糸—50・60番	11番 (ニット針)
	ウール・化繊布	絹ミシン糸——50番 化繊ミシン糸—50・60番	11番
普通地縫い 	普通木綿・化繊布	カタン糸——60～80番 化繊ミシン糸—50・60番	11番
	★薄手ジャージー	絹ミシン糸——50番 化繊ミシン糸—50・60番	11番 (ニット針)
	一般ウール・化繊服地	絹ミシン糸——50番 化繊ミシン糸—50・60番	11～14番
厚地縫い 	デニム	カタン糸——30～50番 化繊ミシン糸——50番	14～16番
	★ジャージー	絹ミシン糸——50番 化繊ミシン糸—50・60番	11～14番 (ニット針)
	コート地	絹ミシン糸——50番	11～14番

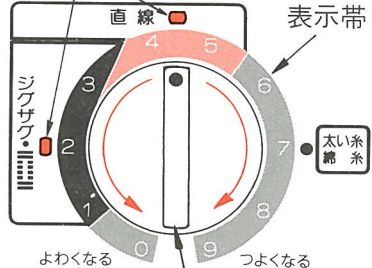
★印はニット針(HA×1KN)を使用して下さい。

(ニット針…針の幹が細く、針穴が大きくえぐられています。目とびを防ぎ、伸縮性の布地に適します。)

●糸調子つまみの使い方



シグナル表示



糸調子つまみ
糸調子シグナル

- 電源を入れたときと、模様選択をしたときに、糸調子目安のシグナルが数秒間点滅します。
- シグナルと表示帯は、糸調子の目安です。左に回すと弱くなり、右へ回すと強くなります。

● 模様にあった糸と糸調子のとり方

直線関係			
絹ミシン糸	化繊ミシン糸	カタン糸(綿糸) (ロー引きカタン糸)	太い糸
50・100番	50・60・90番	50・60番	20・30番
<p>上のシグナルを中心にどちらかへ回して調子をとります。</p>		<p>目盛7を中心に調子をとります。 (このとき上のシグナルはついています。)</p>	

ジグザグ模様・ボタン穴かがり	
絹ミシン糸	化繊ミシン糸
30・50・100番	30・50・60・90番
<p>左(目盛2)のシグナルを中心にどちらかへ回して調子をとります。</p>	

● 正しい糸調子のとり方

<正しい糸調子>

上糸
下糸
布地
上糸と下糸の重なりが2枚の布の中心にきている。

<上糸が強い場合>

上糸調子を弱くする

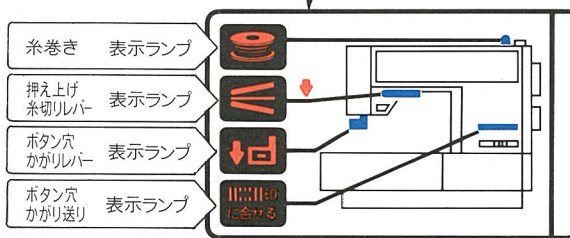
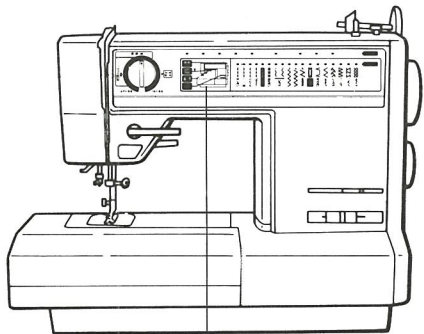
<上糸が弱い場合>

上糸調子を強くする

※ボビンケースの下糸張力は、上記の糸調子目安に合わせてありますので調整する必要はありませんが、調整を必要とする場合は53ページを参照してください。

●シンセツモニター

縫い始めの正しい準備がされていないと表示ランプが点灯してお知らせします。

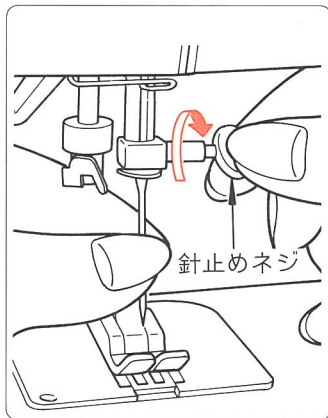
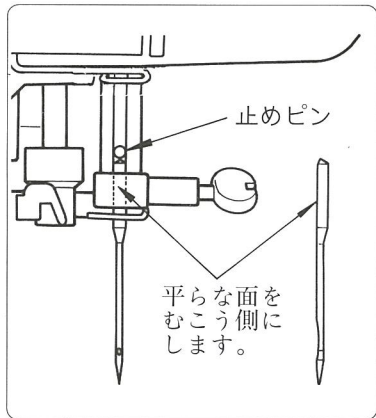


シンセツモニター

表示ランプが点灯している		
表示ランプ	状態	スタートボタンを押した時
	糸巻軸 糸巻軸が右側に行き糸巻き状態になっている	針は1針しか動かず、糸巻軸がまわります。
	押えが上っている	矢印 ↓表示ランプが点滅し針は1針しか動きません。
	ボタン穴かがりレバーがセットされていない	表示ランプが点滅に変わり、ミシンは動きません。
	縫い目の長さの送り指標が 印の範囲になっていない。	縫い目があらかくなります。 (ミシンは動きます)

縫い始める時 (下図のようにしますと表示ランプは消えます)	
	ミシンを止めてから糸巻軸を左側へ戻します。
	押え上げ・糸切りレバーを水平にします。
	ボタン穴かがりレバーを下げて手前に引きます。 (23ページ参照)
	送り調節ダイヤルをまわして、 印の範囲に送り指標を合わせます。 (22ページ参照)

●針のとりつけ方 ※必ず電源を切ってください。



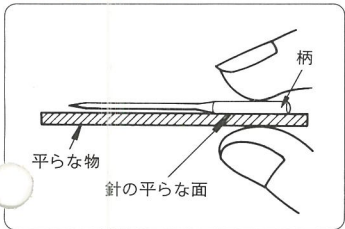
針棒を最上部にあげて、針止めネジをゆるめます。

針の平らな面をむこう側に向けて、指で針止めネジをかたくしめ針棒のみぞの止めピンに突き当たります。

までいっばいに差し込みます。

※針の突き当てが不十分ですと、目とびや糸切れが生じます。

●針の調べ方



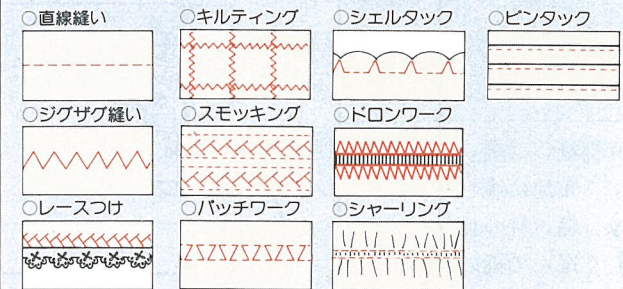
針の平らな面を平らな物に当て、すかして見ます。すき間が針先まで平均に見えるのが良い針です。

●針の選び方

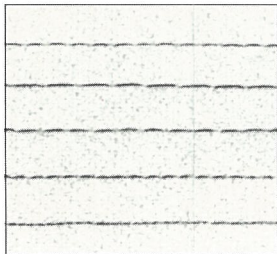
針をお買求めの際は家庭用ミシン針のHA×1又はHA×1KNとご指定ください。

<p>数字が大きくなると針が太くなります。</p>	<p>伸縮性のあるジャージー、トリコット等に使用します。</p>	
---------------------------	----------------------------------	--

直線縫いから、ボタン穴かがり、筒縫い、アップリケ、ブラインドステッチなどいろいろな縫い方が簡単にできます。

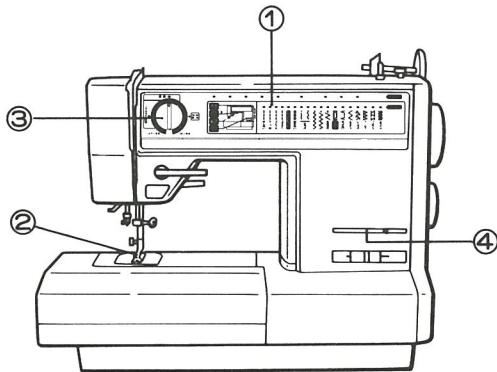


- はし縫い
- 筒縫い(フリーアーム)
- 三つ巻き縫い
- 三点ジグザグ縫い
- ファスナーつけ
- 伸縮強化縫い
- 裁ち目かがり
- ボタン穴かがり
- アップリケ
- ひもつけ
- ブラインドステッチ



直線縫いは縫いの基本です。布地に適した、針、糸、縫い目の長さなど正しく選んで縫いましょう。

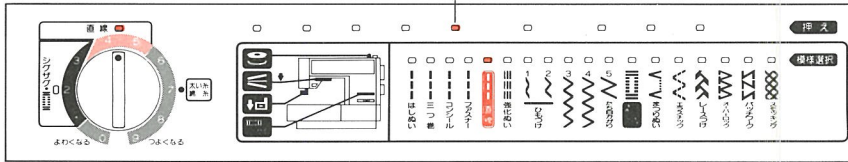
●セットのし方



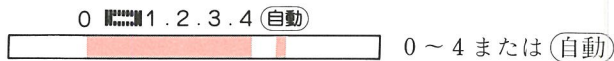
- ①模様
- ②押え
- ③糸調子



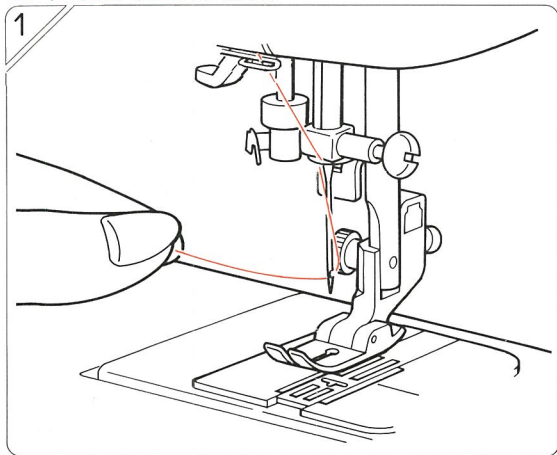
直線押え



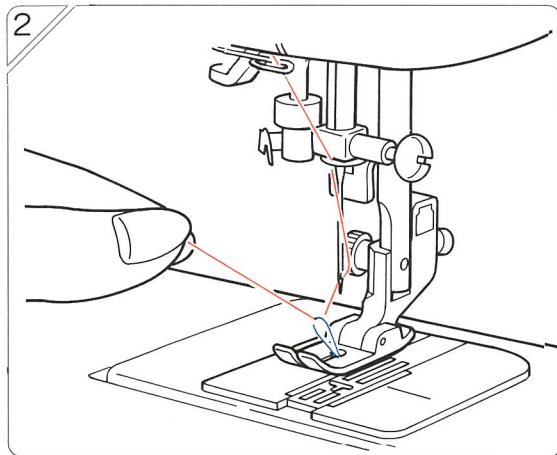
- ④送り



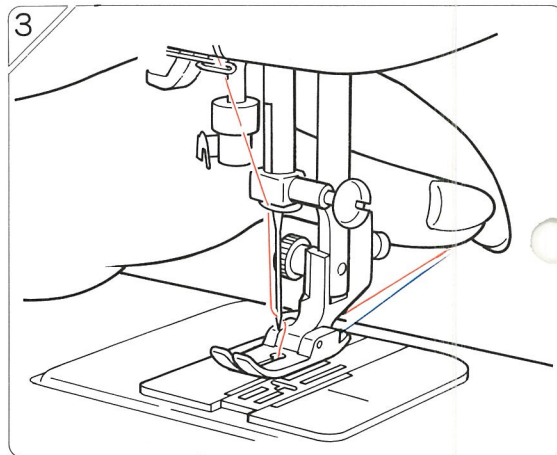
●下糸の引きあげ方



1 上糸のはしを左手で軽く持ちます。

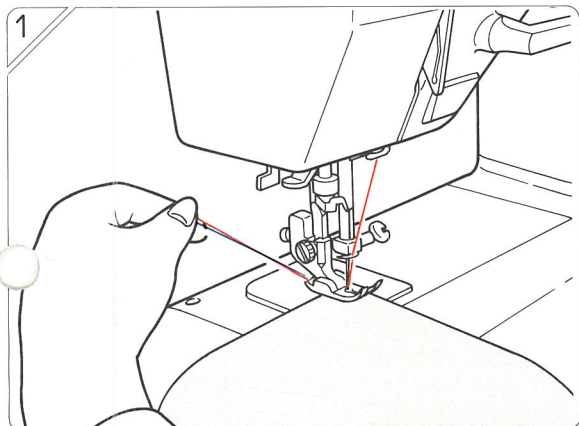


2 はずみ車を手前に回しながら上糸を軽く引きますと下糸が出てきます。

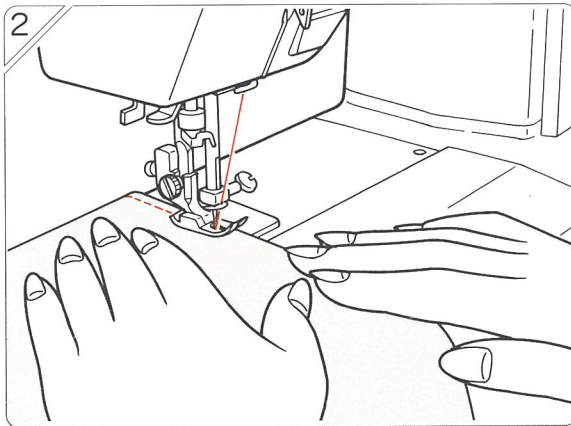


3 押えを上げて、下糸と上糸をそろえて押えの下に通し、10センチくらい引き出しておきます。

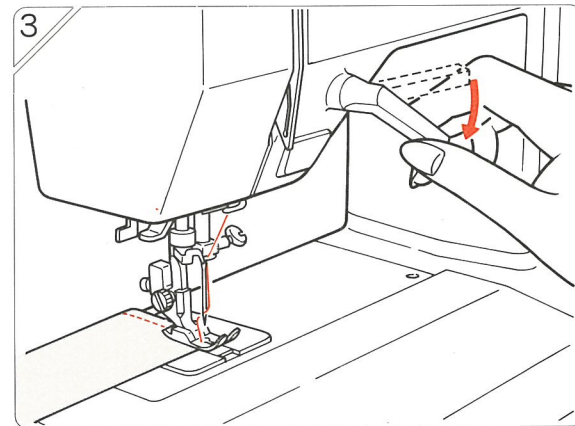
●縫い方



1 布地を押えの下におき、縫い始める位置に針をおとします。下糸と上糸をそろえ、押えをさげてから縫い始めます。

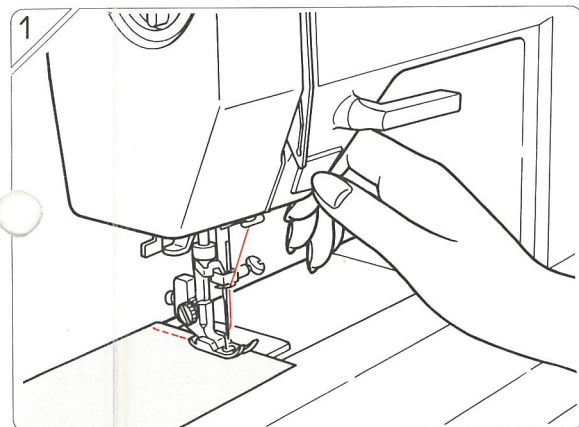


2 縫っている間は、布地をむりに引っばらないようにします。

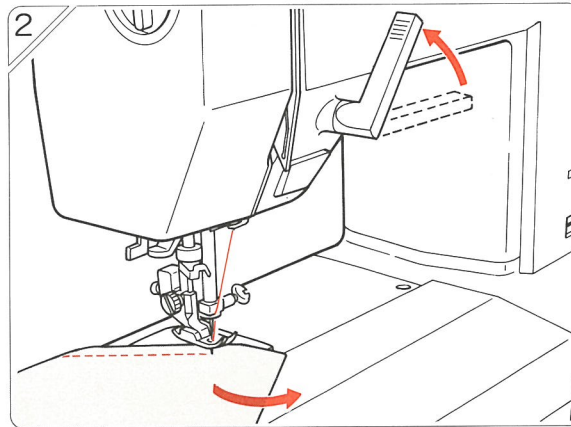


3 縫い終わりましたら、ミシンをストップさせ、糸切りレバーで糸を切ります。(自動糸切りのし方は19ページ参照)

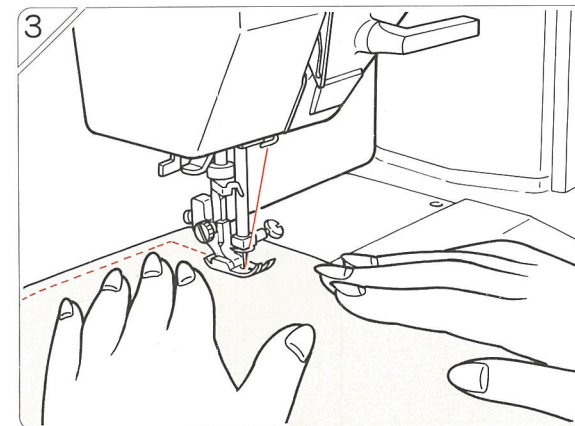
●縫い方向を変えるとき



1 縫い方向を変えたい位置でミシンをストップさせます。針が布地におとされたまま止まります。

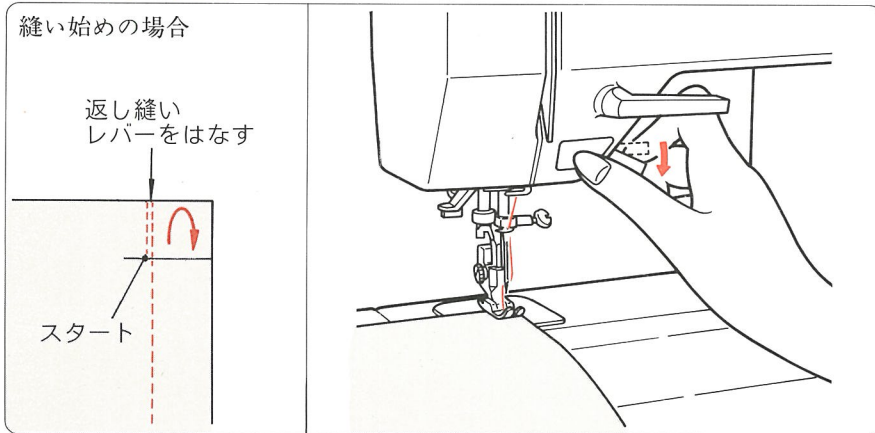


2 押えをあげ、針を軸にして布地を回し、縫い方向に正しくセットします。

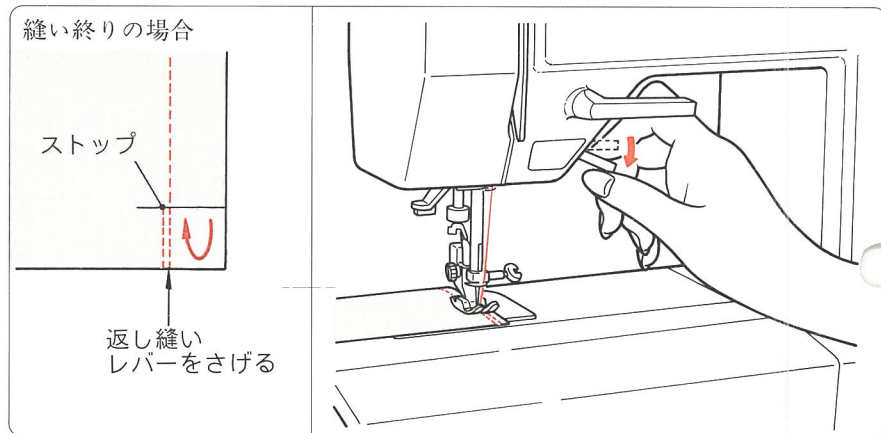


3 押えをさげて縫い始めます。

●返し縫いのし方 (縫い始めや縫い終りに返し縫いをしておきますと糸がほつれません)

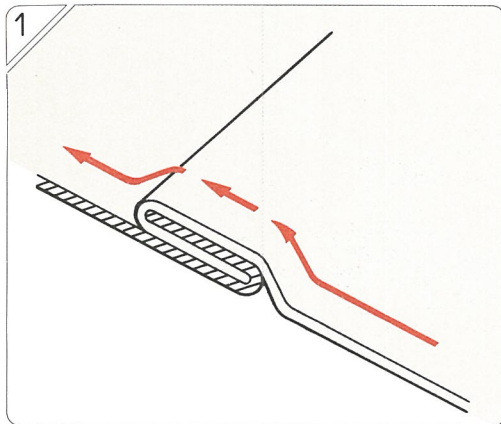


返し縫いレバーをさげたまま、スタート・ストップボタンを押します。

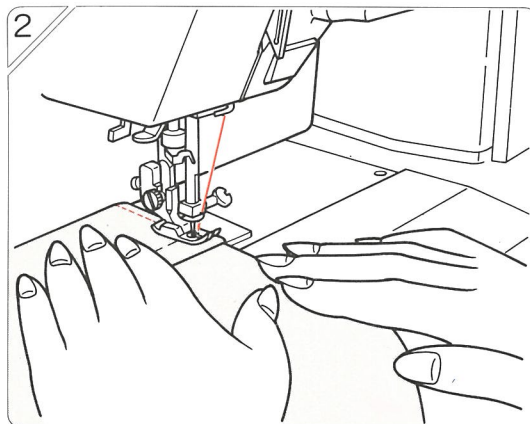


所定の位置まで縫ったら、返し縫いレバーをさげて縫い返します。

●縫い代の重なっている部分

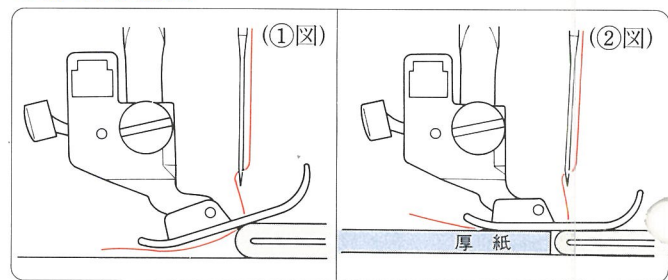


縫い代の重なりや、極端に厚みに差ができてい
るところは、縫い代を倒した方向に縫います。



手で少しずつ布の送りを助けながら縫っていきます。

●厚地の場合

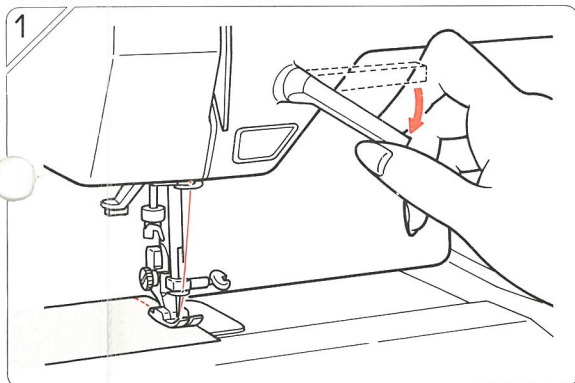



縫い代が重なった厚い部分の布端より縫う場合は、上図のよ
うに押えが傾き布地がスムーズに送られず縫えません(1)㊗。
このような場合は布端と同じ厚さの布地、または厚紙を押え
の下に折り込んで縫いますとスムーズに縫うことができます。

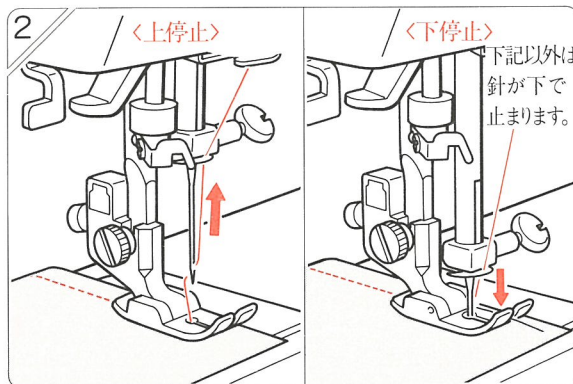
※薄地の場合は縫い始めの上・下の糸を向こうに引っ張りな
がらゆっくと縫います。

縫い終わった後、自動糸切りを使うと便利です。特殊な糸は糸切りみぞを使って糸を切って下さい。

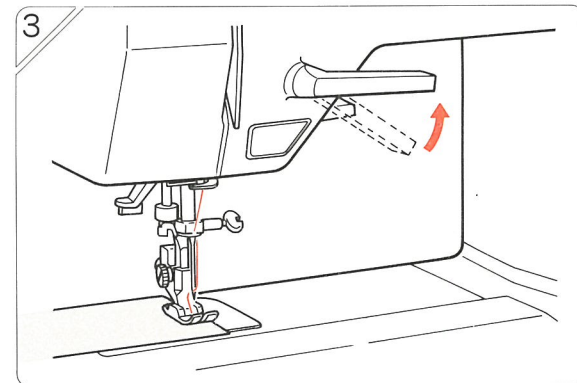
●自動糸切りのし方



縫い終わったら、糸切りレバーを下にさげます。
※糸切り中は、しんせつモニターの  のランプが
つき糸切り状態を表示します。



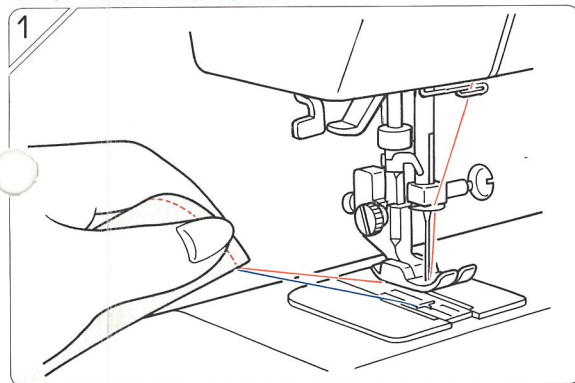
針が上下して上糸と下糸が切れます。ボタン穴かがり、自動糸切り、下糸巻きの場合は針が上で止まります。



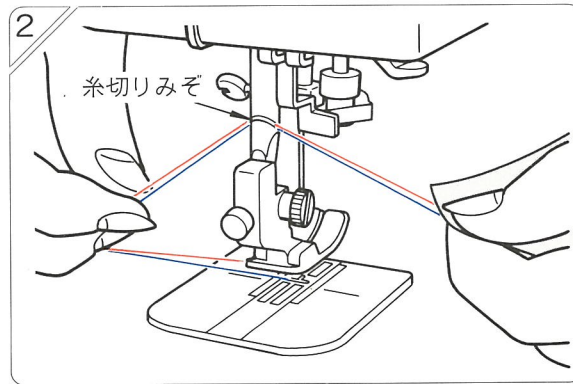
針が止まったらレバーから手をはなします。
レバーは自動的にもどります。

※自動糸切りを行なったとき下糸が針板上になくても続けて縫う事が出来ます。

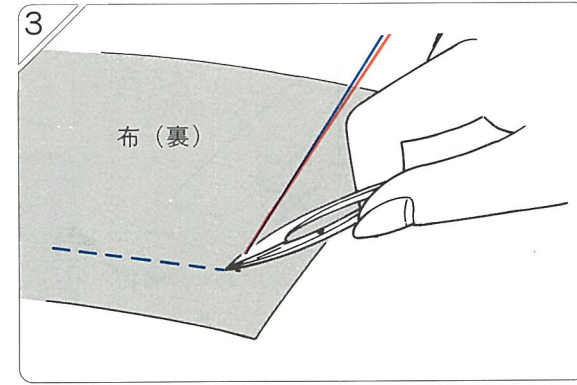
●糸を結ぶ方法(糸切りみぞを使う場合)



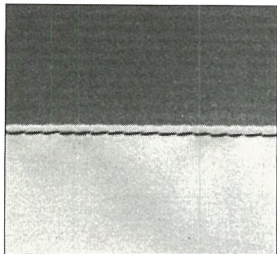
縫い終わったら、押えをあげて布地を静かに引き出します。



上糸と下糸をそろえて、10センチくらい引き出し図のように押え棒の糸切りみぞで糸を切ります。

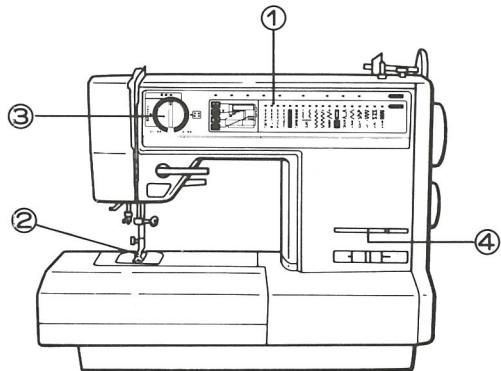


布地の裏側に上糸を引き出し、上糸と下糸を結び、結び目のきわで糸を切ります。

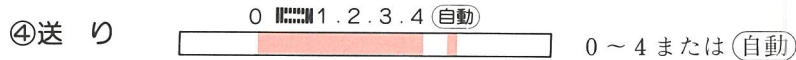
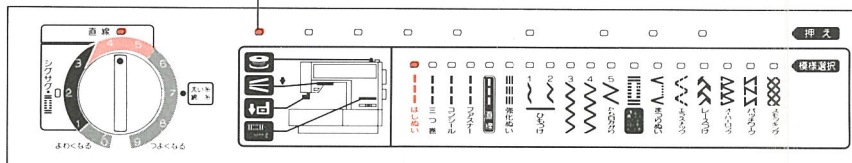


ピンタックをきれいにそろえて縫うときや、衿、カフスの布端のすぐきわにステッチをかけるとき使います。

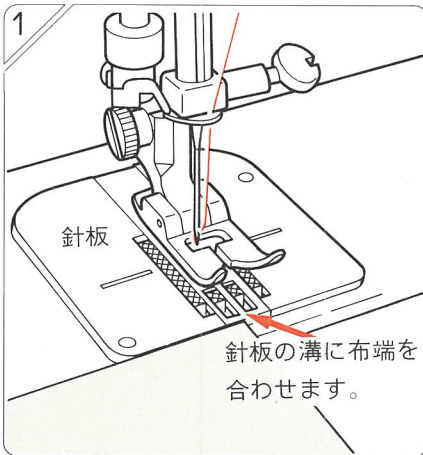
●セットのし方



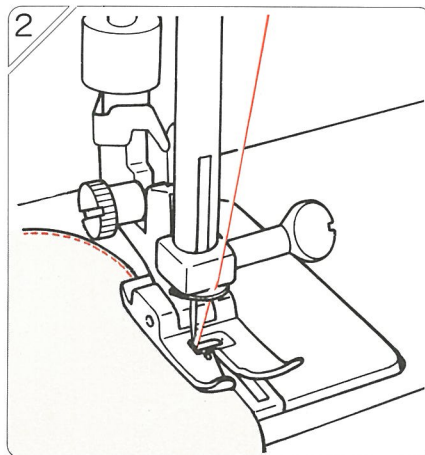
- ① 模様
- ② 押え
- ③ 糸調子



●縫い方

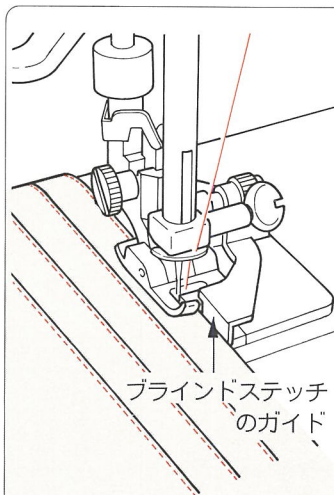


布端をアイロンで整え、矢印のところに合わせて、布端がはずれないように縫います。



曲線の部分は、押えの針おち穴から縫い代をたしかめながらゆっくり縫います。

●応用例

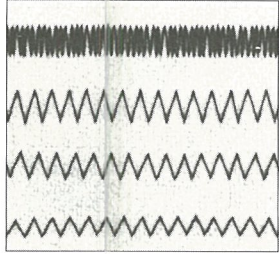


直線の部分のはし縫いや、ダブルステッチはブラインドステッチ押えを使いますと大変便利です。

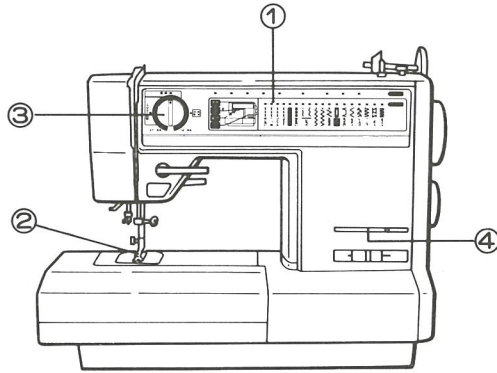
ブラインドステッチのガイドを布端にピッタリあてて縫いますと、ステッチ幅がそろいます。またダブルステッチの場合は、必要な幅だけブラインドステッチのガイドを移動してかけます。

(ガイドの調整方法は33ページを参照)

ジグザグ縫い



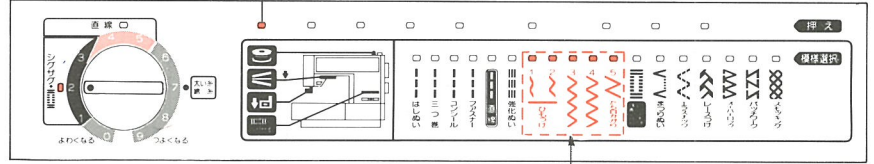
●セットのし方



- ①模様
- ②押え
- ③糸調子



ジグザグ押え



振り幅は1~5のいずれかを選びます。

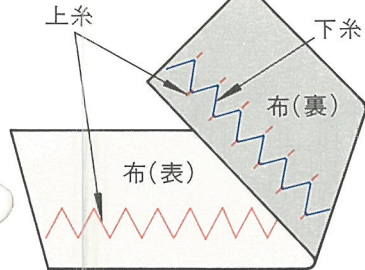
- ④送り

0 1 2 3 4 (自動)

0~4または(自動)

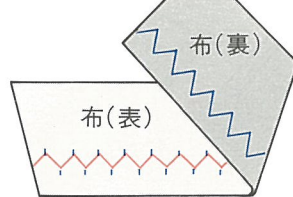
●ジグザグ縫いの糸調子

〈正しい糸調子〉



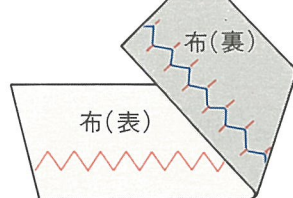
上糸をやや弱めにし、裏に上糸が少し出るくらいが適当です。

上糸が強い場合



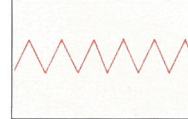
上糸調子を弱くする

上糸が弱い場合



上糸調子を強くする

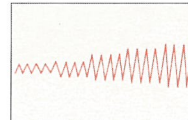
●ジグザグ縫いのいろいろ



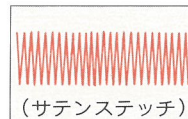
ジグザグ縫いは針を左右に振りながら縫います。縫い目の長さを(自動)にセットしておけば、それぞれの振り幅の理想的な縫い目がえられます。



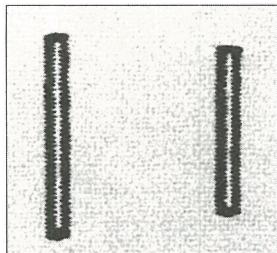
振り幅1~5のジグザグ縫いのいずれかを選び、縫い目の長さを0.5~4の目盛に合わせると、振り幅は一定で縫い目の長さが変化します。



縫い目の長さを固定し、振り幅を変えると図のようなジグザグ縫いになります。縫い始め、縫い終り、縫い方向の変え方は17ページの直線縫いを参照。

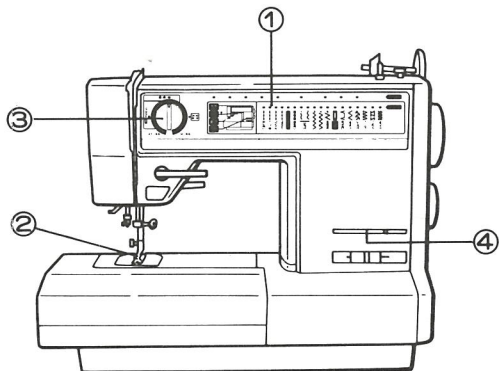


縫い目の長さを小さくすると縫い目が密になり、下の布地が見えなくなります。これをサテンステッチといいます。(縫い目の長さは布地によって調節します。)

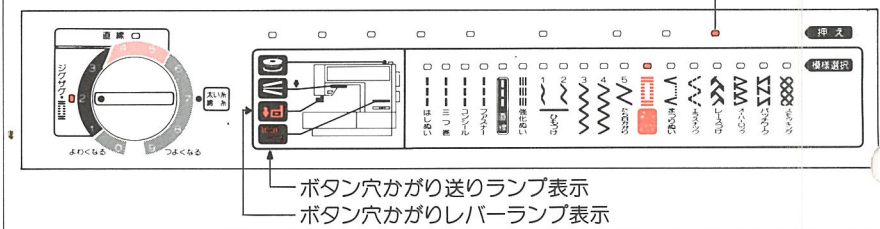


手縫いするとたいへん手間のかかるボタン穴かがりが自動的にできます。

●セットのし方



- ①模様
- ②押え
- ③糸調子



- ④送り

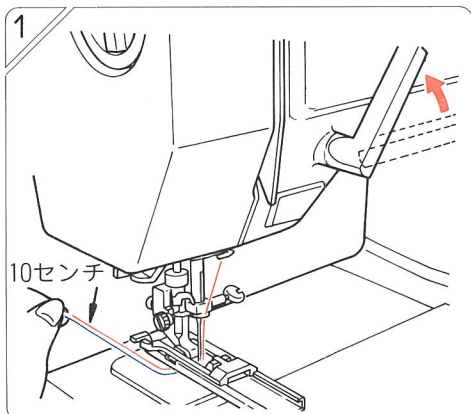


※ しんせつモニターのボタン穴かがり送りランプ が付いている時は の範囲に合わせます。

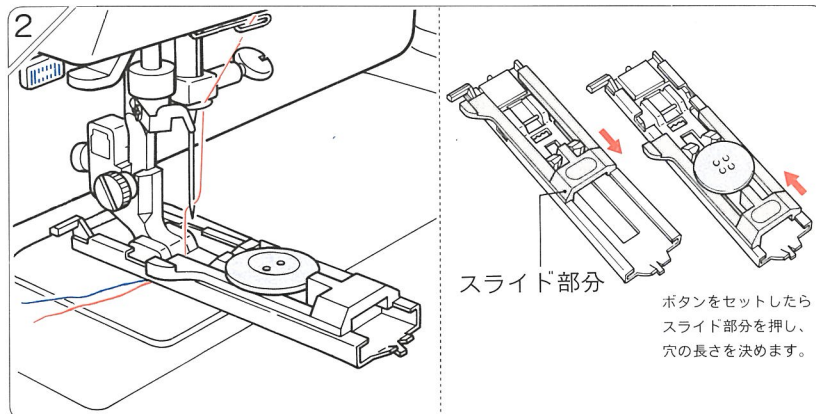
(1) ボタン穴かがり……縫い速度は「ゆっくり」から「中くらい」の速さで縫います。

ニット地(伸縮素材地)は押え調節つまみを「よわい」にするときれいに縫えます。

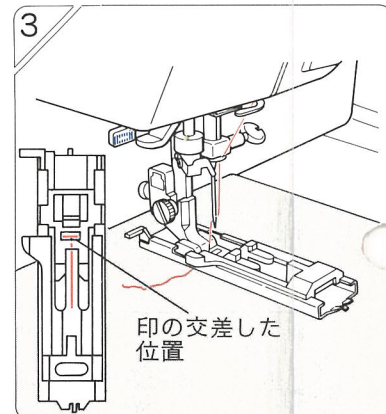
必ずためし縫いをして、正しく縫えることを確認してください。



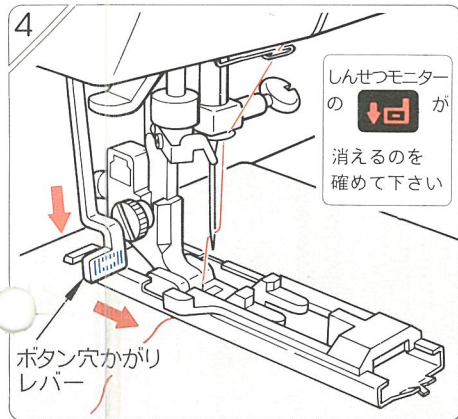
上糸を押えの下へくぐらせて、横に引き出しておきます。



ボタン穴かがり押えにボタンをセットします。かがり穴の長さは、ボタンをセットするだけで自動的に決まります。長さが決まったらセットしたボタンをはずします。(押えにボタンがのらないときは、ボタンの長径+ボタンの厚みが、かがりの長さです)



ボタンをはずし布をセットします。針をあげたまま、穴かがりの印の交差した位置を押えの針穴の中心に正しくセットします。



レバーを下にさげ手前に引いてから押えをさげます。しんせつモニターのボタン穴かがりレバーランプが消えているのをたしかめてから縫い始めます。

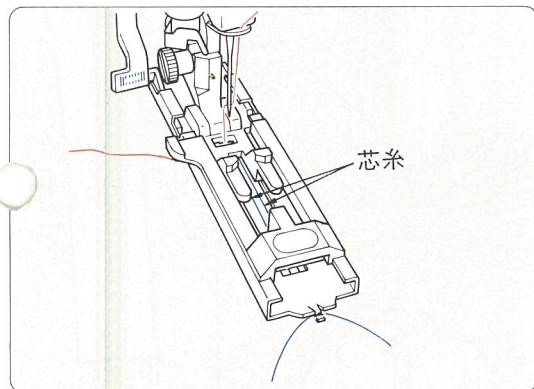
※レバーを引かないでスタート・ストップボタンを押しますと、[LED] が点滅しミシンが動きませんので、レバーを手前に引きます。

※ボタン穴の大きさをまちがえたり、糸切れがしたときは、ミシンを止め糸を針からぬき、最初のカン止めの位置まで空縫いして、改めて縫いはじめます。

※ボタン穴かがりレバーを手前に引いても [LED] のランプが消えないときは、はずみ車を手で2～3回転させてからレバーを手前に引きます。

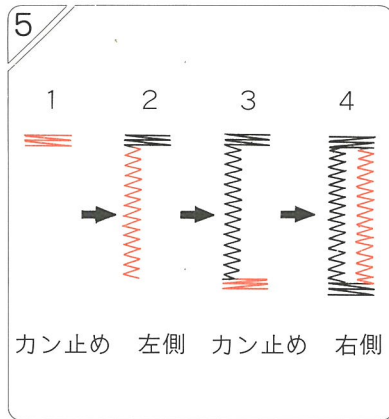
※ジャージー、トリコット等の伸縮性の素材に穴かがりをする場合は、布地の下に紙を敷くと美しい穴かがりができます。

(2) 芯入りボタン穴かがり

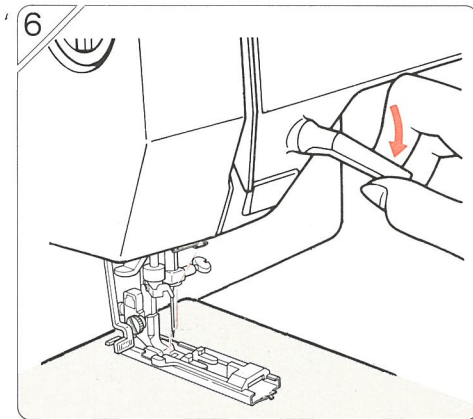


芯糸を入れて縫うとボタン穴の伸びを防ぎ、丈夫なボタン穴かがりができます。

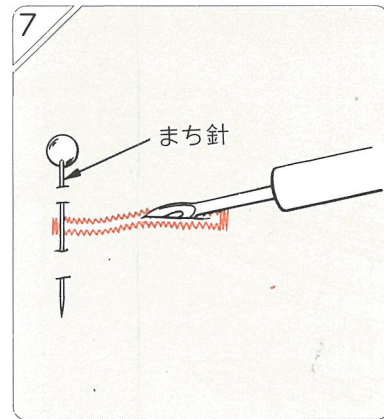
芯糸にはレース糸、または穴糸を使用します。



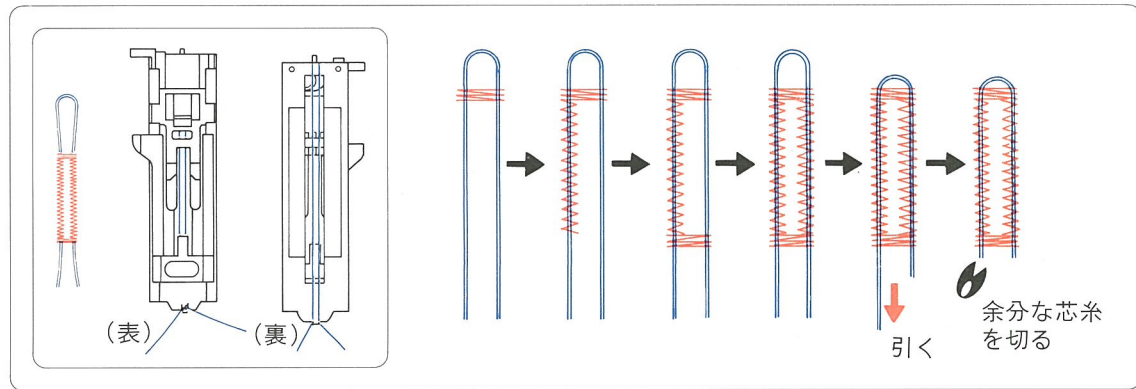
ミシンをスタートさせると上の順序で縫えます。縫い終わりは針が上で自動的に止まります。



縫い終わったら糸切りレバーを使って糸を切ります。(ボタン穴の2個目からも、ボタン穴かがりレバーを引いてから押えをさげてください。)

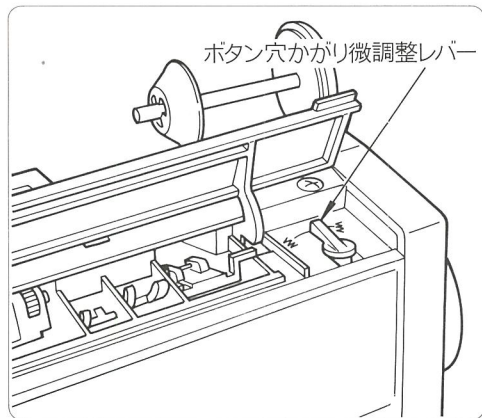


リッパーで縫い糸を切らないように中央の布地を切り開きます。穴かがりの端にまち針をさしておくと切り開きすぎることがありません。

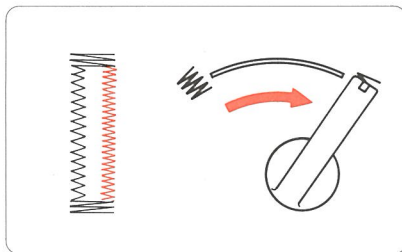


芯糸入りのボタン穴かがりをするときは、芯糸をボタン穴かがり押えの裏側の先端にひっかけて裏側の手前側を結びます。そのままボタン穴かがり押えを取りつけて穴かがりをすれば、芯糸入りのボタン穴かがりができます。

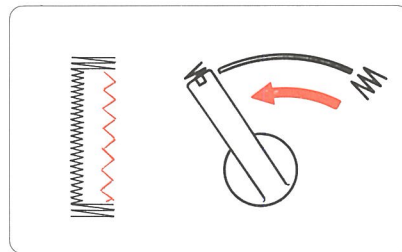
(3) ボタン穴かがり微調整



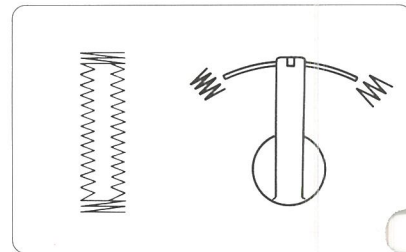
布地の種類によっては左側のかがりと右側のかかりに差が出る場合があります。そのときは、ボタン穴かがり微調整レバーを操作し、右のかかりを左のかかりに合わせます。



右のかかりが密の場合→右へ



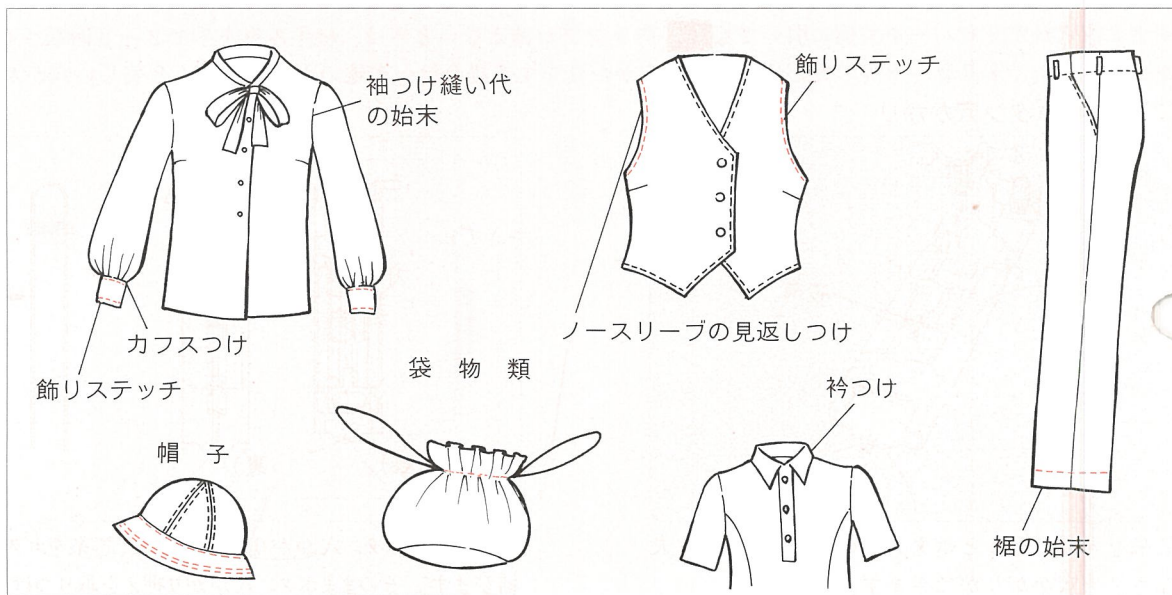
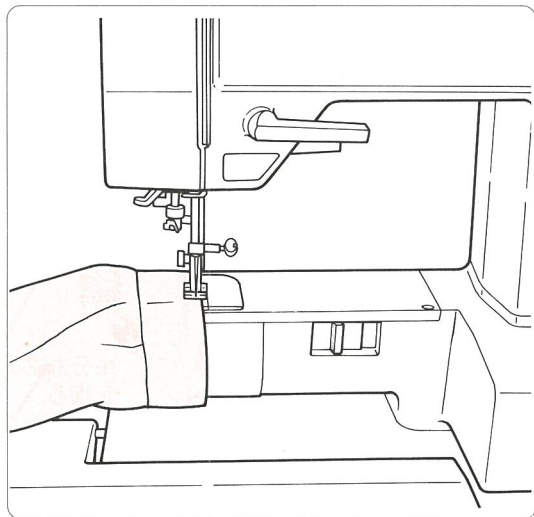
右のかかりが粗い場合→左へ



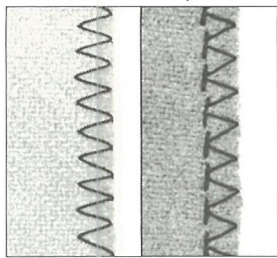
普通の布地の場合→レバーは中央

※縫い代が重なっている部分は、透明ボタン穴かがり押え(別売)を使いますと便利です。(46ページ参照)

カフスつけ、ノースリーブの見返しつけ、袖口、ズボンの裾など筒型部分を縫うのに大変便利です。

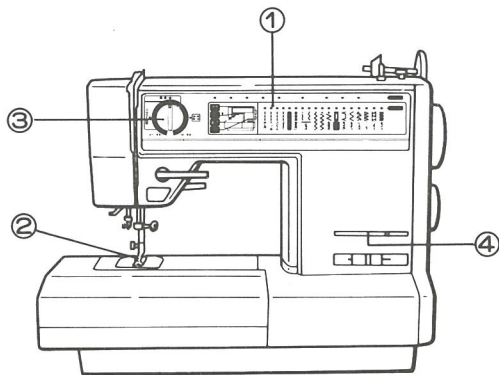


裁ち目かがり(縁かがり)



布地の裁ち目がほつれるのを防ぐため利用します。

●セットのし方



- ①模様
- ②押え
- ③糸調子



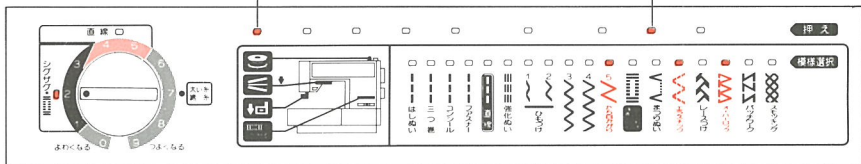
- 三点ジグザグ
- 振り幅4以下のジグザグ

ジグザグ押え



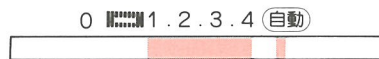
- オーバーロック
- 振り幅5のジグザグ

裁ち目かがり押え



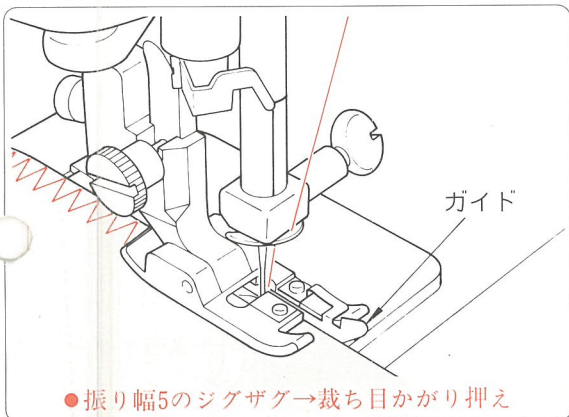
選んだ模様によって押えをとりかえます。

- ④送り



ジグザグ、三点ジグザグ縫い
…1~4または自動
オーバーロック…自動

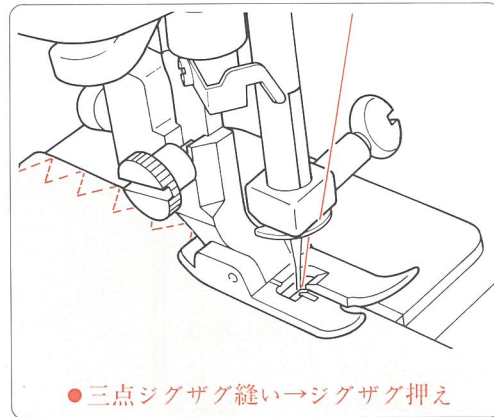
●ジグザグ縫い裁ち目かがり



●振り幅5のジグザグ→裁ち目かがり押え

裁ち目のほつれ止めとして広範囲に利用できます。布端を押えのガイドにあて、針が裁ち目をかろうとする布地の端、すれすれにくるようにセットします。

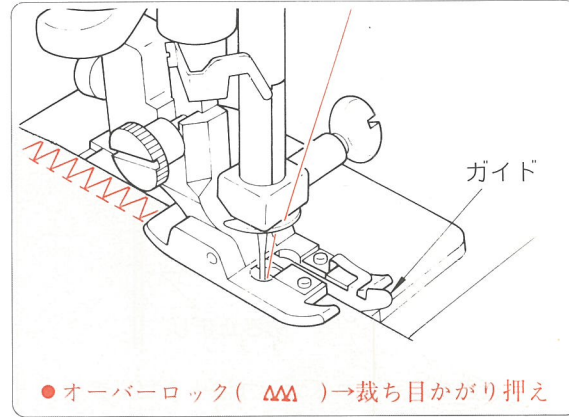
●三点ジグザグ縫い裁ち目かがり



●三点ジグザグ縫い→ジグザグ押え

ほつれやすい布、伸縮性のある布に利用します。布端より織糸の1~2本内側に針が落ちるように縫います。

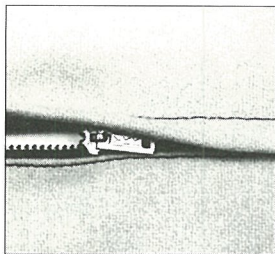
●オーバーロックの裁ち目かがり



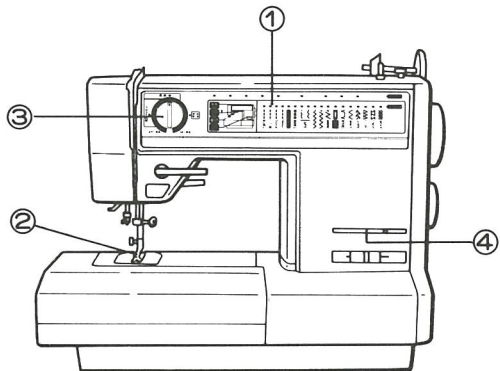
●オーバーロック()→裁ち目かがり押え

かがり縫いと地縫いが同時にでき、ほつれやすい布や伸縮性のある布で縫い代をわらなくてよいものの縫い合わせに適します。

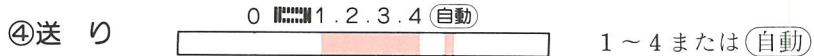
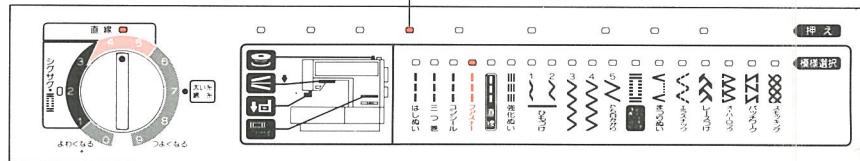
※オーバーロックの場合は糸調子を標準より強めに合わせますと美しく仕上がります。



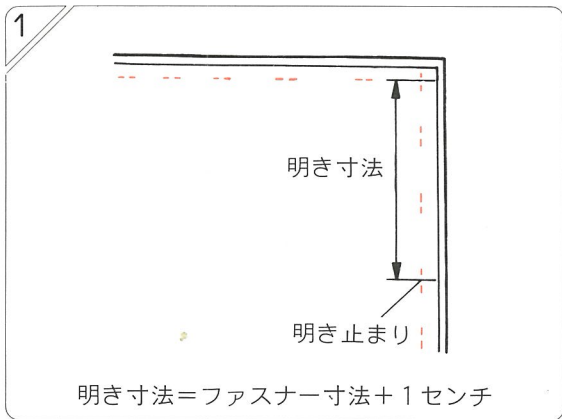
●セットのし方



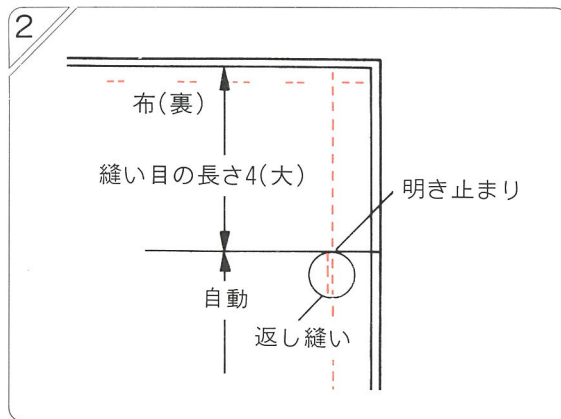
- ① 模様
- ② 押え
- ③ 糸調子



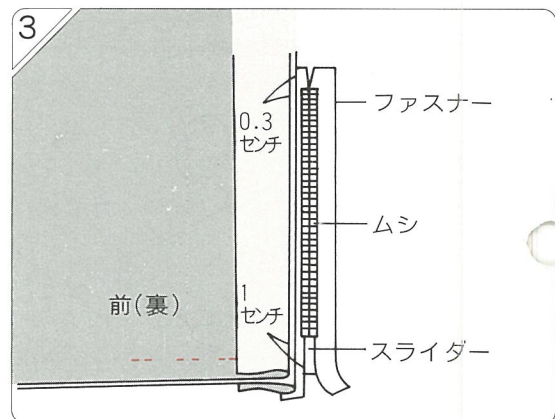
(1)脇明きファスナーつけ



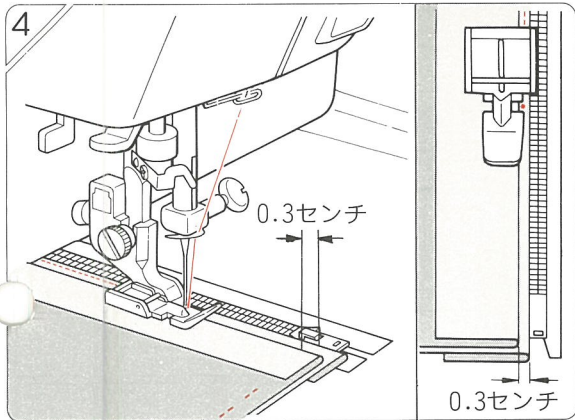
ファスナー明きの寸法をたしかめます。



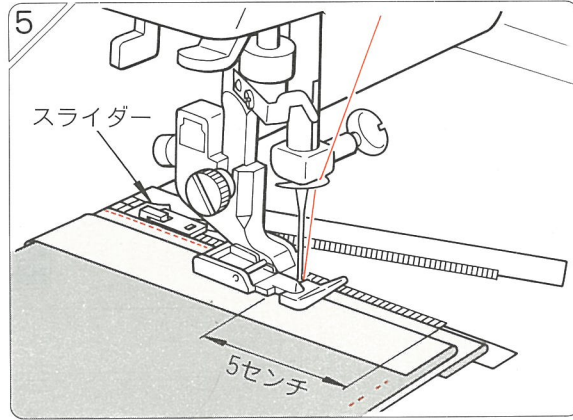
布地を中表に合わせ布端より明き止まりまで大きな縫い目(送り4)で縫い、明き止まりから縫い目を自動に変えて1センチ返し縫いをし、所定の位置まで縫います。



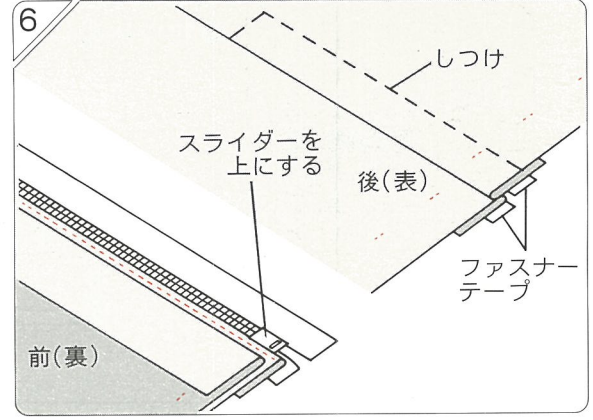
縫い代をきっちりわり、後ろの縫い代を0.3センチ出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をムシのきわに当てます。



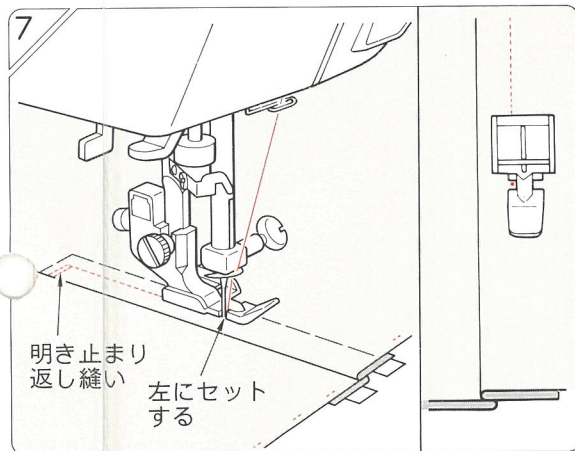
ファスナー押えの右側にセットし押えの端をミシのきわに当て後ろ脇にファスナーの片方をつけます。



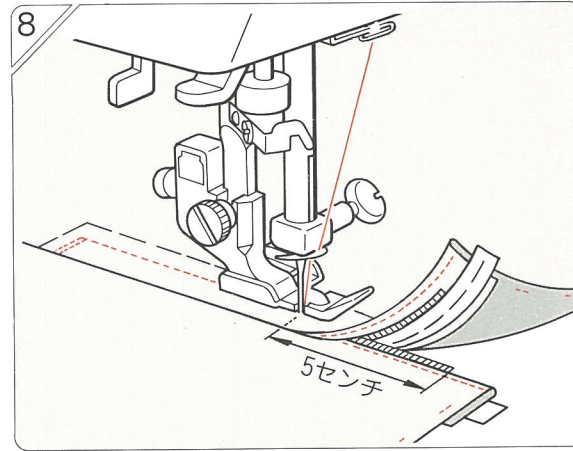
ファスナーの端から5センチ程手前でいったんミシンを止め、押えをあげて、ファスナーのスライダーを図のようにさげ、押えをおろして端まで縫い止めます。



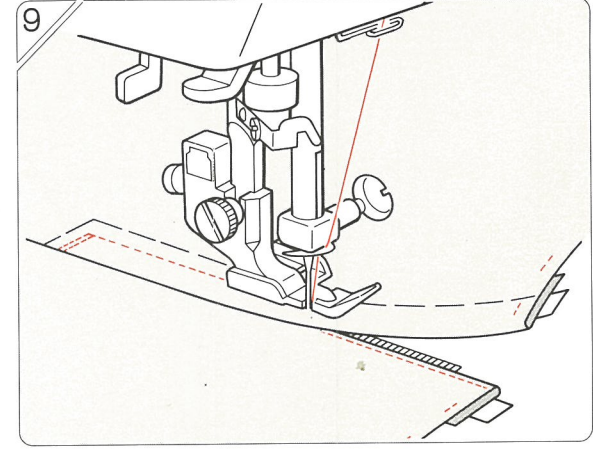
後ろ脇が縫い終わったら、スライダーを上を引き上げて、さらに上に倒し、前布をファスナーの上にかぶせます。かぶせた布とファスナーテープをしつけで止めます。



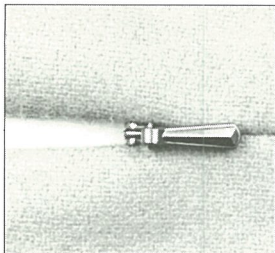
前脇につけるときは明き止まりを返し縫いして、押えの端をスライダークいわに当て、0.7~1センチのミシンをかけます。



ファスナーの端から5センチ程手前でいったんミシンを止め、押えをあげて②で縫った大きな縫い目の部分のみほどこきます。

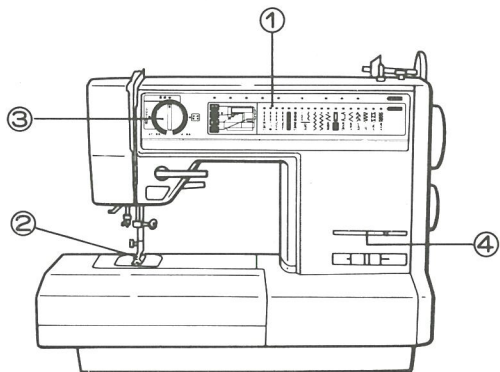


スライダーを押えより下までおし開き、押えをさげて、端まで縫い止めます。



ファスナーの縫い目が布地の表に出ないで、つき合わせの状態での明きの始末ができます。

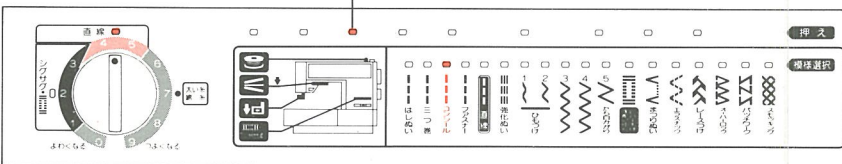
●セットのし方



- ① 模様
- ② 押え
- ③ 糸調子



コンシールファスナー押え



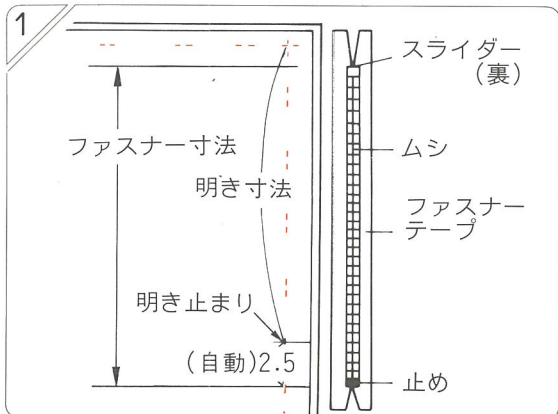
- ④ 送り



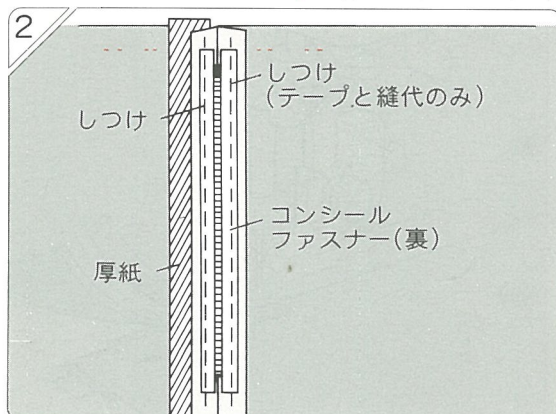
1 ~ 4 または 自動

●縫い方

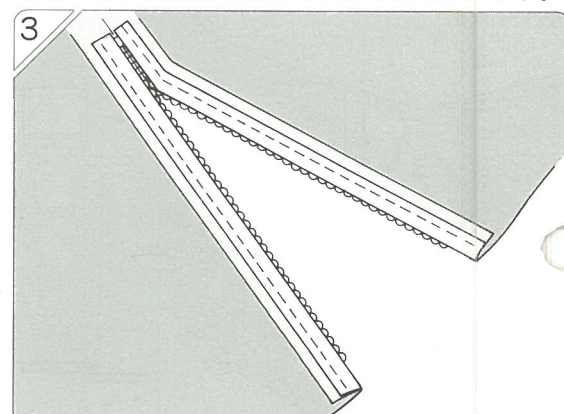
コンシールファスナーはファスナー寸法より2.5センチ明き寸法が短く(縫い残しができる)なりますので、図を見て正しく明き寸法をきめます。



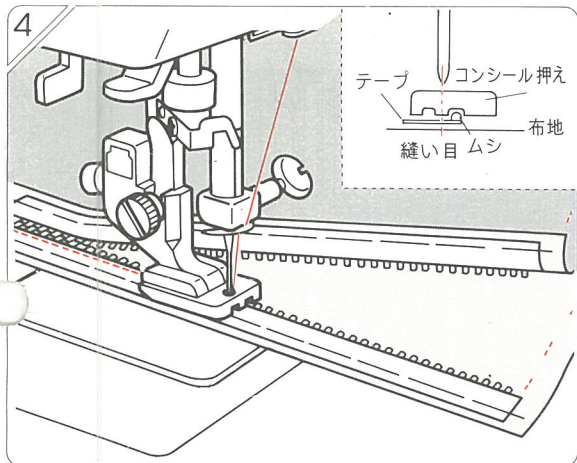
布地を中表に合わせて布端より明き止まりまで大きな縫い目(送り4)で縫い、明き止まりから縫い目を自動に変えて1センチ返し縫いをし、所定の位置まで縫います。縫い代をきっちりわります。



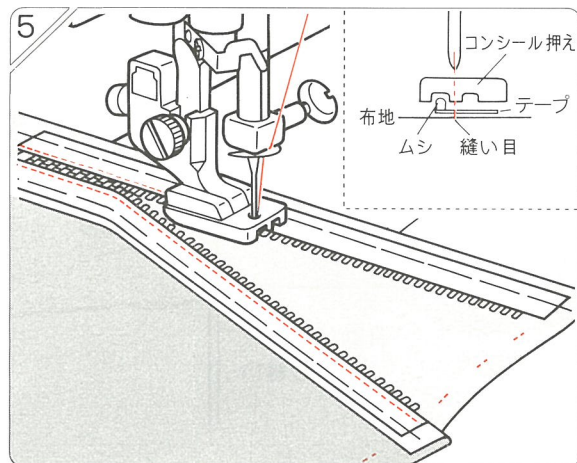
縫い目線の上にコンシールファスナーの中心をのせて、縫い代と表布の間に厚紙を入れ、縫い代とファスナーテープを両側ともしつけでしっかり縫い止めます。しつけが終わったら厚紙をとります。



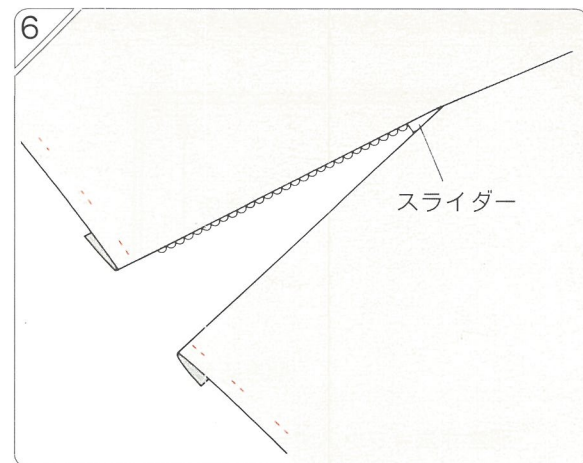
①の明き止まりまで縫った縫い目をほどき、ファスナーを開きます。



4
一方の縫い代をファスナーのムシを押えのみぞにきっちり合わせ、指でムシを立てるようにして、ムシのきわにミシンをかけます。



5
もう一方の縫い代も同じ方法で縫い合わせます。



6
スライダーを中より出し、上に引きあげます。